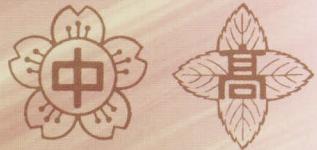


句日立未



第136周年

甲府中学・甲府一高
同窓会

日に新た



2016年5月21日土 甲府富士屋ホテル

あなたの、いちばんメディア。



山梨日日新聞社

山梨放送

アドブレーン社

サンニチ印刷

YBS T&L

山梨ニューメディアセンター

タウン企画

山梨文化学園

日本ネットワークサービス

デジタルデビジョン

ファーストビジョン

ワインテック コミュニケーションズ

新聞センター

山日リース

山梨文化会館

山日YBSグループ

甲府市北口2-6-10(〒400-8505)
電話番号案内 055-231-3000

日に新た

第一三六周年甲府中学・甲府一高同窓会

目次

甲府中学校校歌・甲府第一高等学校校歌・応援歌	2
ご挨拶 甲府中学・甲府一高同窓会会长長	3
甲府第一高等学校校長	4
第一三六周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員長 千野英治	6
特集 新しくスタートしました！ 探究科	7
特集 在校生・卒業生アンケート	21
恩師寄稿・恩師御礼	33
広告目次	41
広告（広告ページ1～100）	147
第一三六周年甲府中学・甲府一高同窓会協賛者ご芳名	148
第一三六周年甲府中学・甲府一高同窓会学年協賛者氏名	149
第一三六周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会組織	150



甲府中学校校歌

一、我等は日本に生まれたり

神の御代より一系の

皇統戴く我國に

生れしことのうれしさよ

皇國の榮えは天地と

共に窮りなかるべし

二、大和島根に山めぐる

甲斐の国あり水清き

郷土の歴史顧みよ

我等の務め軽からず

見よや南に富士ヶ嶺は

皇國の鎮めと聳えたり

三、大海原の揺りやまぬ

波をも風をも凌ぎつつ

護れ皇國を諸共に

國民挙りて國のため

撓まず萎縮まず辟易がず

進むぞ大和ごころなる

甲府第一高等学校校歌

一、甲斐の国 み中に建ちて

古へゆ 雄心伝へ

新しき 世の鑑とし

勉めてむ この学舎に

二、日に新た また日に新た

弥高き のぞみをもちて

真なる 理究め

励みなむ 若人我等

三、聳えたつ 芙蓉のたかね

清き哉 甲斐の山川

もろともに 玉と磨きて

贊くべし 天地の化育

希望の光

一、希望の光 身に浴びて
若人の意氣負うて立つ
いま選手等の門出を
空もとどろに 応ふらん

二

敵軍いかに 猛くとも
忍び伏せたる梓弓

鶴城に

起て擊て勝て

起て擊て勝て

甲府一高
一高

その名ぞ我が母校

仰ぐ芙蓉の峰さやか

穹天まさに轟かむ

見上精銳の集へる

誓ひは固しわれらが精銳

おお

起て擊て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

一、鶴城

一、鶴城に桜花咲き 人は皆歡樂に酔ふ

人は皆歡樂に醉ふ
われ一人落花を浴びて
前の恥花園に泣きぬ

お御崎さん

お御崎さんの神主力

おみくし引いて

日 て い い

卷之三

券ち券ち

ソレ勝ち

ソレ勝ち勝ち



「探究・新たなる挑戦」

甲府中学・甲府一高同窓会

会長 金丸 信吾

甲府中学・甲府一高の先輩、後輩の皆様、本日は平成二十八年度の同窓会の総会、並びに懇親会に多数御参加いただき、誠に有難うございます。毎年千人を超す同窓生が一堂に集い、盛大に開催出来ることは、この上ない喜びであります。

又、常日頃からの同窓会の運営、活動に対しましては、皆様方の温かい御理解、御協力を賜り、心から感謝と御礼を申し上げます。

我が母校甲府一高は、本年で創立百三十六周年を迎えます。多くの先輩達が築き上げてきたこの伝統と歴史こそ、我々同窓会の大きな誇りであり、何物にも代え難い財産であります。

この伝統と歴史を踏まえ、今年度の同窓会のテーマは、昨年の「賛天地之化育」を引き継ぎ、校歌にも歌われ、我々同窓生の心の拠りどころとなっている「日に新た」であります。

本年四月から甲府一高は大きな決断をし、英語科を廃止し、探究科をスタートさせました。学生達がそれぞれ自分の目指す道を探し、それをグローバルな視点で探究していくことですが、この甲府一高の「新たなる挑戦」の為、この「日に新た」の精神をかみしめ、同窓会の皆様には、尚一層の御支援、御協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

同窓会活動につきましては、これまで学生達のより良い教育環境を整える為、学校設備の充実、奨学金制度の充実、又学生達のユニークな活

動に対する日新基金の創設等を実施して参りましたが、今後も皆様方の御協力、そして御指導をいただきながら、母校甲府一高が、名実共に山梨県の名門校としての自信と誇りを持てるよう、更なる努力をしていかねばならない、と思っております。

最後になりましたが、本年度総会の為、一年間に亘って大変な御苦労と御努力をいただいた、千野英治実行委員長を中心とする昭和五十九年卒と平成十三年卒の当番幹事の皆様方全員に、心から敬意を表し、又感謝を申し上げます。

同窓会会員各位の益々の御繁栄と御活躍、そして甲府一高同窓会の更なる発展を願いつつ、感謝を込めて御挨拶といたします。



進化する一高

甲府第一高等学校

校長 堀井 昭

平成二八年度甲府中学校・甲府第一高等学校同窓会総会が、「日に新た」のテーマ

のもと、盛大に開催されますことを心よりお祝い申しあげます。同窓会の皆様方は、母校のため後輩のため、物心両面のご支援をいただき、厚くお礼申しあげます。

今年度は甲府一高にとって、重要な「進化」のステップを刻むエポックメークングな年になります。この記念誌でも特集していただいているとおり、英語科を県内初の「探究科」に改編し、四月に一期生八十人を迎えて、普通科と共に「進化する一高」がスタートしました。探究科では、英語科で培われた英語教育を礎として、SGH（スーパーグローバルハイスクール）を中心とする探究活動を積極的に推進し、グローバル化する社会の一員として求められる資質や能力の育成を目標としています。

二年前にSGHの指定を受けた本校は、各学年英語科と普通科計二クラスが、活動のテーマである「主体的に課題を解決できる山梨発グローバルリーダーの育成」に基づいて、正解のない課題解決に向けて探究活動を行ってきました。今年はSGH一期生が三年生となり、社会課題解決の方策を各企業、行政機関等に提言する、SGHの真価を問われる大切な年になります。新学科の探究活動はSGHの探究活動が中核となりますが、二年間の実績を基に自然科学系から社会科学系まで、幅広い分野の研究テーマに取り組んでいくように、教科との関連を深めながらリニューアルしていきます。また、探究活動は可能な限り普通科の生徒も参加できるように配慮し、その手法や成果は、学校全体で共有

するように今後も取り組んでいきます。

探究活動は時間を使い、手間のかかるもので、正解のない課題を追究する活動の多くは大学受験に直結しません。友人や先生と意見がぶつかることもあります。多くの壁に突き当たり乗り越えられずに挫折もして苦しみます。しかし、この過程で生徒が論理的思考力、コミュニケーション能力などの、これから時代に必要不可欠な力を身につけることが重要であり、これを目標としています。単なる受験エリートから脱却し、グローバルリーダーとして活躍できる実力を身につけた、逞しい人間に成長してくれるものと確信しています。どうか、今後の生徒の活躍に注目し、ご支援のほどよろしくお願い申しあげます。

また、六年前に設立していただいた「日新基金」では、昨年度は美術部による「旅する一美～上海アート研修～」が採択され、夏休み中に部員十人がエネルギーに満ち溢れる街「上海」を訪問してきました。上海は美術界でも多彩な才能が集い、今、世界的に注目されています。その地の美術界で活躍する人々と交流することで、美術部員は代えがたい刺激をうけ、新たな制作に打ち込んでいます。このように、これまでの「日新基金」のお力により、多くの部活動を中心とした多彩な活動が、新たな「進化」を成し遂げています。

「進化する一高」の原動力として、同窓会の皆様のお力は欠かすことのできないものです。今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願いするとともに、同窓会のますますのご発展と皆様のご健勝を祈念しまして、挨拶いたします。



「日に新た」の 思いを胸に

第一三六周年 甲府中学・甲府一高同窓会

実行委員長 千野 英治

第一三六周年甲府中学・甲府一高同窓会総会および懇親会開催にあたり、本年度の当番幹事（昭和五九年卒・平成一三年卒）を代表致しましてご挨拶申し上げます。

本日ここに無事総会の日を迎える事が出来ました事は、ひとえに金丸信吾同窓会長を初めとする多くの同窓会関係者の皆様による温かいご指導と、未だ厳しい経済情勢が続く中、記念誌への広告・協賛・会員券等で多大なるご協力を賜りました皆様の力強いご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

母校甲府一高を卒立ち、早三二回目（一五回目）の初夏を迎えようとしております。それぞれに様々な夢や希望や不安を抱きながら、卒業証書を胸に甲府一高の正門を一步踏み出したあの日の心の震えるような感覚は今でも忘れません。あの日から多くの歳月が流れましたが、母校の同窓会当番幹事を契機に懐かしい面々が集まり始め、遠く離れていた時間を埋めるように互いに何度も会話を重ねながら準備を進めてまいりました。わずか三年間しか一緒に過ごしていなかつたはずの私達ですが、甲府一高への思いがこれ程までに強く自分自身の中につながりました。再認識すると同時に、このような機会を与えてくれた母校への感謝の思いが日増しに強くなるのを感じました。

さて、本年のテーマは「日に新た」といたしました。母校を卒立ち、そ

れぞれが進む道の途上で、私達の背中をいつも力強く押してくれたのは、仲間と共に歌った甲府一高の校歌、とりわけ「日に新た」の一節であります。どんな時も昨日より今日、今日より明日と自身の向上に努め、高い理想と希望を持って進めと教えてくれた甲府一高の精神は私達の大きな支えであり、今日までの心の道標であつたと思います。

このテーマのもと、多くの同窓生の皆様が旧交を温める機会としていただくと同時に、時代をとらえ進化を続ける現在の母校の取り組みと、頑張る現役の一高生へ大いなるエールを送る同窓会にしたいと考え企画してまいりました。世界で活躍するグローバルリーダーを育成するという高い目標に向かい熱意を持って取り組む先生方と現役生の姿に、母校甲府一高の限りない可能性を感じます。そしてその目標に向け、微力ながら同窓生として少しても支えとなる事が出来れば幸いです。

結びに、全てが手探りの状態でスタートした私達に、温かい手を差し伸べていただきました多くの先輩方、関係者の皆様方に心より感謝申し上げますとともに、母校ならびに同窓会の発展と関係各位の益々のご健勝とご活躍を祈念いたしまして御礼のご挨拶とさせていただきます。

特集
1

新しく
スタート
しました！

座談会

(取材日
平成27年11月)

探究科

Super Global High School

global



甲府一高の
「探究科」とは

- ・物事を論理的に思考し、英語を自由に活用しながら、表現できる生徒の育成を目指す。
- ・グローバル人材として活躍するための素地を作る。
- ・論理的思考力や国際的視野を養う。
- ・探究テーマは、自然科学分野から社会人文分野まで幅の広いものを想定。

教育内容

- ・英語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けるための英語力の養成と、グループワークや発表など探究活動の時間を確保。

進路状況

- ・探究科の教育活動は文部科学省が指定したスーパーグローバル大学が求める学生像に対応。

ハイクオリティな授業

- ・25年間の英語科の実績を生かし、コミュニケーション能力の育成を重視した英語教育を行う。次のような実体験に基づくことにより、表現力を育成する。

セブ島への研修旅行(全員)/ヘンリー高校の生徒との交流

UCLA大学院生とのワークショップ/Science in English

英語による公開発表&プレゼンテーション

- ・アクティブラーニング型の授業を推進する。問題解決型学習、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション、グループ・ワーク等を適宜取り入れて、生徒の学習意欲を刺激し、効果的な授業を行う。

Boys Be Ambitious





問題解決型思考、そして世界で活躍する グローバルリーダーへ

質問1

「探究科」新設については、SGHの延長線上にあるものだと思いますが、改めて（確認の意味で）SGHの概要について教えてください。

野澤先生 ● 本校は、平成26年度4月に、文部科学省からスープラーバーグローバルハイスクール（SGH）に指定されました。指定期間は5年間です。この事業の目的は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力や問題解決力を身につけ、将来国際的に活躍できるグローバルリーダーを高等学校の段階から育成することになります。

本校のテーマは、「主体的に課題を解決できる山梨発！グローバルリーダーの育成」です。本県には、農業や伝統工芸における後継者不足、生産労働人口の減少など、産業の活性化を阻害する社会的な課題があります。これらの社会課題を手がかりに、本県の特徴的な産業である「地場産業」「伝統工芸」「ワイン産業」「果樹産業」及び

「観光産業」などの現状や、諸外国での取組を調査・研究し、アウトバウンド、インバウンド双方の視点を取り入れ、それぞれの課題の解決を目指したプランニングを行い、その成果を各方面に提案していきます。これらの取組を通して、グローバルな視野を養うとともに、論理的な思考力・判断力や実践的なコミュニケーション能力の育成を目指します。

なお、SGHの対象になる生徒は各学年約80名で、英語科と普通科の特進クラスの生徒が対象となっています。来年度の入学生から英語科と特進クラスがなくなりますので、新1年生は新しく設置される探究科2クラスが対象となります。

齋藤 ● 大学でもSGHと同じ大学がありますよね。早稲田大等が指定されていますね。

野澤先生 ● そうですね。大学でのSGHになります。SGHに指定された高校として、ぜひ、生徒にはSGHを目指してほしいと考えています。



野澤先生

平成22年度より勤務。SGH推進係主任を2年間務め、今年度は進路指導係主任。担当教科は英語。昭和61年甲府一高卒。



赤池前校長

平成26年度より校長を務め、平成28年3月末にて退職。SGH推進と探究科への改編に尽力。現在は山梨県立大学特任教授。

大学、企業、行政、そして海外との連携



ています。

具体的な活動として、まず、高大連携を挙げたいと思います。現在、山梨大学、山梨県立大学と連携をさせて頂いており、両大学で、様々な講座を受講させて頂いております。山梨大学では、「ワイン科学」「自然資源の価値と国際経済の基礎」を、また、山梨県立大学では、「山梨学」「グローバル化論」「山梨の政策課題」「取材論」「地域振興論」の講座を受講させていただきました。また、山梨大学の内田誠先生には、理工学的内容である「環境エネルギー政策と燃料電池」について講演をして頂きました。

これまでのSGHとしての一高での具体的活動内容について教えてください。

野澤先生 ● 現在、様々な取り組みをしています。

山梨の地場産業、伝統工芸、農業、観光産業等の社会課題に対して、調査・探究していく中で、課題解決のためのプランニングを行い、最終的には、行政・企業・大学等に提案・提言ができれば良いと考えています。そのためには、行政・企業・大学等と連携させてもらいたい、幅広い知識と視野を獲得したいと思つ

て、これまでのSGHとしての一高での具体的活動内容について教えてください。

野澤先生 ● 現在、様々な取り組みをしています。

山梨の地場産業、伝統工芸、農業、観光産業等の社会課題に対して、調査・探究していく中で、課題解決のためのプランニングを行い、最終的には、行政・企業・大学等に提案・提言ができれば良いと考えています。そのためには、行政・企業・大学等と連携させてもらいたい、幅広い知識と視野を獲得したいと思つ

ています。

その原因、解決策等について」という演題でお話をしてくれました。2回目は、山梨県庁観光企画・ブランド推進課長の仲田道弘氏(本校OB)が「山梨の観光振興の課題と原因、課題に向けた展望」について、講演をしてくださいました。これらの講演は、SGHクラスにだけでなく、全校生徒に聴かせました。これらの講演は、SGHの効果を全校生徒に広めていきたいと考えています。山梨県庁産業労働部、観光部とも連携させて頂き、情報収集や調査・研究を進めています。

本校は、オーストラリアのヘンリー高校と姉妹校であり、ヘンリー高校と連携させて頂き、共同調査・研究を行っています。昨年3月に、SGH海外短期研修として、20名の生徒がオーストラリアに行き、ヘンリー高校を訪問しました。ヘンリー高校では、英語でディスカッションをしました。また、山梨のタンザンには、「観光立国日本の中でも甲府の街づくりを考える」という講演を、「(株)近藤一郎」には、「夢と戦略をもつて世界へ」という講演をして頂きました。(株)勝沼醸造の講演は、「世界を舞台にした甲州ワイン」で、どのお話にも大変感銘を受けました。

行政機関との連携については、行政機関の方に2回、基調講演をして頂きました。1回目は、農林水産省の方が、「山梨と日本の農業が抱える問題点や



古河教頭

平成26年度より勤務。教頭として特に教務、広報等を担当する。担当教科は理科。昭和51年甲府一高卒。



飯島先生

平成18年度より勤務。平成27年度より教務主任を務める。探究科改編への実務を担ってきた。担当教科は国語。

さまざまな活動、それが自信、 そして貴重な財産となる

また、「グローバル探究」という科目の中で、具体的なSGHの探究活動を行っています。1年生が、「グローバル探究Ⅰ」に、2年生が、「グローバル探究Ⅱ」に取り組んでいます。1年生のグローバル探究Ⅰは3単位で、基調講演、企業訪問、企業講話、大学講座、探究活動を柱としています。例えば、グローバル探究Ⅰでは、前述した2回の基調講演会の内容をまとめた壁新聞をグループ毎に作成し、発表会・評議会を行いました。夏休みには長野研修を実施し、長野県のワイン会社を見学したり、農家民泊をして、農業を体験をとおして学ぶと同時に、農業が抱える課題についても考察しました。研修の二日目には、地元の文化会館で、農業についての討論会も行いました。他に、新聞投稿オリエンテーション、イングリッシュセミナー等も実施されています。グローバル探究Ⅱは1単位で、探究活動、基調講演、大学講座を柱としています。4月に時事通信社の甲府

支局長さんにご来校いただき、時事通信社基調講演会を行いました。8月以降は、甲府市観光課とコラボして、甲府市の観光振興策を考えるグループもあります。また、耕作放棄地で小麦を育てる栽培研究プログラムに参加しているグループもあり、9月には日本工業大学・駒場中学高等学校で、任命式が行われました。

昨年、甲府市観光振興基本計画に対するワークショップが行われました。甲府市観光課、山梨県立大学の吉田先生から説明を受け、山梨県立大学の学生と一緒にディスカッションをし、グループ毎の発表会を行いました。いくつかの提言は、実際に甲府市観光振興基本計画に反映され、生徒の大きな自信となりました。

昨年冬に、プレゼンテーション大会を2回開催しました。これは、山梨ブランドサミットに向けたリハーサルとして行つたもので、12のグループに分かれて、インバウンド課題、アウトバンド



な質問が出されました。また、単にプランを提示するだけでなく、プランの背景にある社会課題についても探究しました。2回目のプレゼン大会では、山梨県観光部、県教育委員会、山梨県立大学の先生から、貴重なご講評を頂くことができました。

昨年2月に、1年間の成果発表会として、甲府一高山梨ブランドサミット・公開発表会を行いました。インバウンドのテーマは、「東京オリンピックのための外国人集客構想を企画する」アートバウンドテーマは、「〇〇をインドネシアに輸出してみる」としました。インドネシアへの輸出を増加させることという県の施策に合わせて、テーマを設定しました。インバウンド・アウトバウンドのテーマに取り組むと同時に、世界レベル・山梨県レベル・個別レベルの社会課題を挙げ、個別レベルの問題の原因、その具体的な解決策を提案しました。各グループとともに、街角に出でてインタビューやをしたり、有識者から情報を取り出したり、客観的・実践

課題に取り組みました。インバウンド課題では、山梨県に外国人などの観光客を呼び込む方策に取り組みました。アウトバウンド課題では、山梨の農産物・商品等を海外にグローバル展開させるプランを考えました。発表時間は7分、質疑応答に5分。質疑では、様々な質問が出されました。また、単にプランを提示するだけでなく、プランの背景にある社会課題についても探究しました。2回目のプレゼン大会では、山梨県観光部、県教育委員会、山梨県立大学の先生から、貴重なご講評を頂くことができました。

的なデータ収集を心がけたプレゼンテーションとなりました。各グループの発表時間は12分、グループ協議3分、質疑・反駁時間が10分でした。質疑・反駁の時間では、時間が足りないほど、多くの意見が出されました。

として、インドネシア大学生25名と引率教員の先生方が本校に来校し、交流会を開いて親睦を深めました。校内やまなしへランチセミナーに参加してもう1回、インバウンド・アウトバウンド1グループずつが英語によるプレゼンテーションも行いました。午後の交流会では、インドネシアの文化などについて紹介をしていただき、笑顔の絶え

ない時間を共に過ごすことができました。また、昨年10月19日から28日まで、本校生徒21名と教員2名が、ジネシス2015のプログラムで、インドネシアを訪れ、現地の高校を訪問したり、ホームステイをして、異文化理解を深めました。また、今年2月26日に、ジネシスプログラムとして、インドネシアの高校生・引率教員15名が本校を訪問する予定です。

昨年3月に、UCLA大学院生との連携ワークショップが行われました。このワークショップは、SGH指定校である本校生徒とUCLAの大学院生が交流や議論を通して友好を図る

とともに、SGH活動に役立つ指導助言をもらい、今後の海外調査等における高大連携のための基礎づくりを目的として実施したものです。午前は、2年生の生徒たちが英語による学校紹介を行いました。午後は、1学年の生徒たちがSGHの活動で探究した課題を英語でプレゼンテーションを行いました。その内容についてUCLAの学生とディスカッションを交わしたのですが、生徒たちの真剣なまなざしがとても印象的でした。UCLAの学生による本格的なプレゼン方法を体感できたことは、きっと貴重な財産となつたことと思います。

昨年9月に、SGHリーダー・サブリーダー等、SGH生徒が主体的に企画・運営し、山梨ブランドサミットの人版IIやまなしぴランドフォーラムを開催しました。PTA・同窓会から6人のパネリストの方が参加しました。山梨の魅力や社会課題、また、課題の解決に向けた提言について、パネリストの方々からご意見をいただきました。生徒や一般参加者から、たくさんの質問・意見が出され、ブランドフォーラムは大変盛り上りました。

昨年9月に、SGHリーダー・サブリーダー等、SGH生徒が主体的に企画・運営し、山梨ブランドサミットの人版IIやまなしブランドフォーラムを開催しました。PTA・同窓会から6人のパネリストの方が参加しました。山梨の魅力や社会課題、また、課題の解決に向けた提言について、パネリストの方々からご意見をいただきました。生徒や一般参加者から、たくさんの質問・意見が出され、ブランドフォーラムは大変盛り上りました。

生徒たちは確実に成長している！

質問3 SGHを導入する前と導入後の生徒たちの変化はありますか？

野澤先生 ● 昨年3月に、現2年生（昨年度の1年生）のSGHの生徒に対して、アンケートを実施しました。正直に申し上げまして、成果が出ていているところもありますし、課題が残っている部分もあります。例えば、「1年間の取り組みを通じて、論理的な思考力・判断力が高まりましたか」という質問に対しては、「強く思う」「ある程度思う」と回答した生徒は、86.2%いました。「主体的に課題を構想し、解決しようとしましたか」という質問に対しては、「強く思う」「ある程度思う」と回答した生徒は、71.0%でした。一方で、「グローバルリーダーとしての自覚が高まりましたか」という質問に対しては、「強く思う」「ある程度思う」と回答した生徒は、47.3%しか

いませんでした。このあたりが、課題であると考えています。

アンケート全体を通して、まだまだ課題はあるものの、SGHの生徒達は論理的な思考力・判断力や実践的なコミュニケーション能力を着実に高めていると実感しています。

齋藤 ● これだけ多くの活動をしていると生徒さんたちも「常に考える」ということが必要になってしまいます。僕たちのときは、授業を通じて物事を深く考えるといったようなことはなかったような気がします。

これまでの話を聞いていると、今の現役生たちは、恵まれていますね。

野澤先生 ● そうですね。ただその反面、生徒たちはいつも考えなければなく、なかには答えがないようなものもあります。そういう意味では生徒たちも苦しんでいるといえると思います。ただ長い目で見ると生徒たちは非常に良い経験をしているのではないかと思います。

質問4 SGH導入後、困った点等ありますか？

野澤先生 ● 課題を2点挙げさせて頂きたいと思います。1点目は、SGHの成果を全校生徒に還元することです。SGH活動を通して獲得した様々な力を、SGH対象生徒だけでなく、広く全校生徒に伝えていきたいと考えています。2点目は、本校の全職員が共通理解を持って、SGH活動に取り組むことです。全職員間での、協調体制の構築が必要だと思います。

「探究科」は主体的テーマの探究、そして英語で表現

質問5

探究科を設置した理由をお聞かせください。

飯島先生●これまで英語科がありましたが、その学習の中心が英語でした。時代の要請や英語教育のここ数年間の改革により、新たな要求がなされましたが、その学習の中心が英語でした。探究科を設置した理由を残してお聞かせください。

赤池校長●皆さんが高校の時代は先生が言つたことをどんどんノートに書いて覚えるだけでした。それが何十年も続いてきました。知識は一瞬です。知識だけですが、時がたつとどんどん陳腐化します。もちろん知識は、ベースとしては大事ですが、もっと大切なことが探究科を設けた理由です。

もちろん英語科を発展的に改編したので、英語で発信したりとか、英語によるコミュニケーション能力の部分を残し、SGH的要素も取り入れることも本校の探究科の特徴です。

生徒の進路を考えるとき、英語中心ですと生徒の希望や進路実現にうまく合わない部分があり、探究科という形で発展的に改編し、生徒の様々な要望に応えながら進路実現を目指すことも、理由の一つでもあります。

英語はあくまでも手段であり、大切なことは英語で何を発表し、何を発信していくかに重点が置かれています。生徒が主体的に選んだテーマを、自分たちで探究し、それを英語で発信していくことが狙いです。

は「考える力」だと思います。課題が与えられたときに、それを自分で解決する力、あとはそれを自分で発表する力、そういう力がないとこれからの中では通用しません。そういうことを高校時代からやっていくにはどのようしたらよいか、そこが基本ですね。

齋藤●人間の体に例えると、骨です。まずしっかり骨を作つて、そのあと肉付けする。

赤池校長●そうです。骨をしつかり作つておけば、いくらでも知識がついてくる。そういう意味でこれまでの英語科だけでは不十分でした。英語科とか理科があるわけですが、それはこれまでの教育の延長線上のやうなものですね。そういうものから離れようとして探究科を設立しました。先ほど話されたSGHの活動により、生徒もかなり変わってきます。自分で意見が言えるようになってきました。これまで高校生が大勢で議論して手を挙げて意見を言うのは、あまりなかつたことです。昔のことを考えてみてください。まず言えなかつたでしょ。今の生徒たちはそれが言えるのです。後はそのような議論が英語でできるようになることを目的としています。

赤池校長●それはもつと先の話ですね。まずは探究科を軌道にのせて、80名でうまくいっていますよ、成果が出ていますよ、このような教育が良いのではないか、と言う認知をしていただくことが大切です。一高は素晴らしい、この取り組みをもっと広げていこう、というようになれば良いですね。別に探究科は一高だけでよいとはまったく思っていませんから。一高の探究活動が素晴らしいことが認知されれば、その取り組みを他校もすればいいわけですから。山梨県の教育として一高がそのリーダーをする。そうなればいいですね。

質問6

探究科のカリキュラムについて教えてください。

飯島先生 ● SGHの活動時間がある以外は、特に探究という教科があるわけではなく、様々な専門教科を取り入れることによって探究科のカリキュラムが出来上がっています。基本的には理数科と英語科で行っていた専門教科を、従来の理系・文系に相当する「科学探究コース」と「社会探究コース」の中心に据えながら、それにプラスして実際に探究活動をする。もちろん普通教科も入っているわけですが、普通教科の授業でも生徒が主体的に、自ら学習することを狙いとしています。

赤池校長 ● 探究活動といつても普段の授業とかけ離れたものではありません。普段の授業は普段の授業、探究活動は全く別物と言うわけではありません。普段の授業でやっていることの積み上げ、またはその中の一部を深めていくこと、普通教科の延長線上に探究活動があるのです。当然学問だから基礎がなければダメです。基礎は絶対大切です。そして、その先を見据え、将来私はこんなことをしてみたい、そのような夢の実現のために探究活動を学び、総合的に解決していく力を養っていく、そんなイメージですね。

古河教頭 ● そうですね。変わらないところ大変ですね。他の高校から一高に異動になら、ガラッと変わつて、ある意味、自分自身も変わらないとならないですね。

古河教頭 ● そうですね。変わらないところ大変ですね。しかし大学入試もあるわけで、ほとんどの生徒が大学に進学するでしょうし、その力も付けさせていかなければならぬ。先生はすぐ大変になります。

飯島先生 ● 先生方も探究的な活動を取り入れながら授業を行っていますが、教科書をベースとして自分の知識を伝えることは比較的簡単ですが、やつぱり生徒を主体的に動かす、つまり先生方が生徒を自由に動かすのはすごく準備が大変です。

古河教頭 ● 大学受験に直接関係ない活動を行うことで、かえって生徒の力を伸ばしていくことになります。探究科の先進校を視察してきましたが、担当教諭は「大学受験に関係のないところが生徒を伸ばすのだ」と言つていました。

齋藤 ● カリキュラムを見ていると普通教科が多く、探究活動が少しだけある印象でしたが、普通教科の中にも探究活動が入っているわけですね。

齋藤 ● これまでの話を伺うと、先生たちも大変ですね。他の高校から一高に異動になら、ガラッと変わつて、ある意味、自分自身も変わらないとならないですね。

そのような活動を取り入れたほうが成果も大きいと思います。SGHの活動の中でも生徒の目の輝きも違つてきていますし、主体的になればそこから生徒が自主的に伸びていく、SGHの活動ひとつとっても、その成果がよくわかります。それが色々な教科に広がれば、より伸びしろができる、伸びていく生徒が増えていくのではないかと考えています。しかし、先生は大変だろうなど正直なところ思つています。

普通教科の中にも探究教科の精神あり

探究科クラスは「社会探究」コース」と 「科学探究」コースのミックスクラス



質問7

「社会探究」コースと「科学探究」コースの違いは何ですか。

飯島先生●生徒のテーマに応じて「社会探究」コース、「科学探究」コースにコース分けするのですが、クラスはミックスクラスです。「社会探究」コースのクラス、「科学探究」コースのクラスではなく、両方が混在します。「科学探究」コースの中でも人文的な要素が入ったり、「社会探究」コースの中でも理系的な要素が入ったりというこ

とが必ずあると思いますので、ミックスクラスでお互い切磋琢磨していくことになります。このスタイルは3年間継続します。

そもそもクラスやコースを文系と理系に分けているのは日本だけです。専門に対してどんな勉強が必要になるかというのは理系でも文系でも基礎的なところは同じです。そういうことを考えるとミックスクラスの中で「社会探究」コースを選択しても理系的な要素が必要ですし、「科学探究」コースでも人文的な要素が必要です。それが相乗効果により生徒たちを伸ばすことにつながればよいと考えています。

質問8

「SGH」と「探究科」の位置づけはどのようになっていますか？

飯島先生●今は文部科学省から「SGH」の研究指定を受けているので活動しています。

活動としては、「地場産業の課題解決」をテーマとして取り組んでいます。しかし研究指定の期間が終わると、この活動も終了してしまいますので、将来的には(地場産業の課題解決に限らず)生徒の希望などをテーマに反映させて「探究科」という大きな枠組みを作り、そこで発展させていこうと考えています。



県立甲府第一高等学校

質問9

一高のパンフレットに「自己のテーマに応じた探究活動」との記述がありました。生徒によつてやりたいものが違つていて、と思いますが、どのような指導をされるのでしょうか？

飯島先生●やはり個人で探究するといふことは限られてきますので、グループ活動を中心にして似通つたテーマのところを集めて、グループ活動として探究していこうというのがひとつ方向性としてあります。もちろん自己のテーマに沿つてということで、「どうしても俺はこれをやりたい」という生徒には、サポートできる教員がいればサポートしていこうかと思います。基本的にはグループ活動の中で一つのテーマを極めて行こうというのが狙いです。まずは希望を聞いたうえで、グループとしてどういう方向でテーマを考えて行くかを議論します。

くして12～14グループくらいにできればと思つています。

飯島先生●各グループに担当の先生方がつきながら指導していますので、グループが多くなると先生方の時間数を確保するのにちょっとつきつくなります。

古河教頭●大学でいえば、ゼミみたいなものになります。

鈴木●指導する先生たちも一緒に考ながら、一緒に歩んでいく形ですね。

古河教頭●班は今のSGHの80人2クラスで19グループになります。

野澤先生●今年の2年生のグループは多めだったので、今後はもう少し、少なくなります。

赤池校長●先生方にも限界がありますので、大学の先生にお願いしたり、企業の方とかプロの方にお願いして来てもらって話を聞いたり、あるいはその場所に出かけて行つていろいろ教えてもらつたりします。

質問
10

中学を卒業して入ってきたばかりの生徒たちの中には何をやりたいか分からない人もいるかと思いますが…

赤池校長 1年生の時はみんな一緒に何をやりたいのか分からないなので、探究のための基礎的なことをします。つまり大学や企業を訪問し、いろいろな人の講義を聞かせ、興味を持たせます。そして「自分で考えなさい」と言っています。

古河教頭 今は2月か3月頃にどういうことをやりたいかグループの希望を聞いています。

齋藤 やりたいものが明確にでてくるものですか？

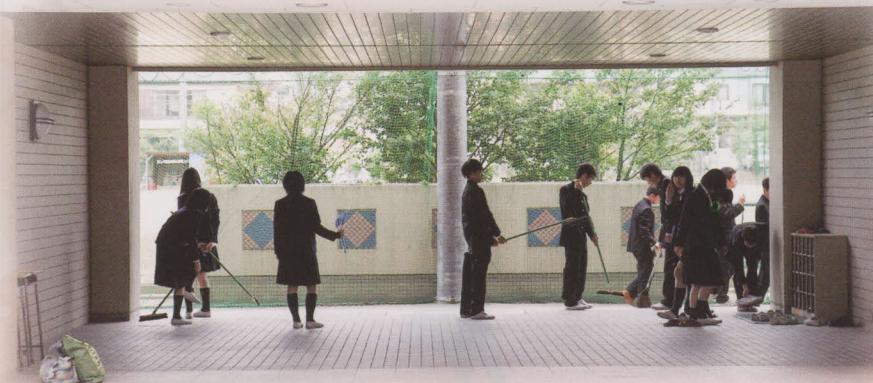
飯島先生 1年の前半は、探究の種をまき、後半から、どんなテーマでやっていこうか考えるという形でやっています。その後、テーマを集約して、研究していくこう、探究していくこう、という流れに持つていこうと思っています。

齋藤 結構難しいように思えますが…

赤池校長 結構できるんですよね、今の中学生は…

飯島先生 我々がこういうような活動をしますよと、中学生に投げかけると、中学生もSGHの活動とかに興味を持つてくれます。また学校説明会にしましても、こんなこともやっているのですね、と中学校の先生方や中学生も刺激的な目、積極的な姿勢で見てくれていると実感します。そういう意味では、私たちの時代は、高校の時に何も考えずにやっていましたが、SGHの導入後、主体的に自分から何かしようという生徒が増えたと思います。受け身ではなくて、自分でこういうことをやりたい、ああいうことをやりたいという生徒が増えたということは確かに言えると思います。

また最近では、グローバルという言葉がキーワードになっていますが、今年度も短期留学で2名がアメリカとイギリスに行きました。自分たちで行きたいと言つて、文科省の事業に自ら手を挙げた生徒です。自分たちで申し込んで、担任に推薦文を書いてくれと言つきました。1次と2次の面接などの試験を通して夏休みに留学したのですが、このように積極的になっている生徒はだんだん増えてきています。そういう生徒、中学生が来てくれると嬉しいですね。



目指すは、探究活動のトップリーダー

～高生のみならず全ての高校生に探究活動を～

質問11

探究科に関する短期目標、中期目標、最終目標は？

赤池校長●最終的には難しいですね。難しいかもしれません、個人的には探究科というのをなくしてしまって、ある特定のクラスだけがそういうことをするのではなく、全クラスが探究活動ができるようにしていきたいと思っていました。県教委でもそういった姿勢があればありがたいですね。

赤池校長●アクティブラーニングの話がでましたが、それはどこの学校もはじめています。しかし一高みたいに本格的にそれをやろうとしている学校はありません。授業の中に組み込んでやるのは一高がはじめてです。

子供たちのために講師を招いたり、あちらこちらに連れて行ったりするのにお金が掛かります。今のSGHの活動は、文科省の事業なので資金援助していただいてますが、この事業が終わってしまったら資金援助も終了します。そこがちょっとつらいところですね。

短期目標としては、3年間で一高での探究科のシステムを固めて、中期目標の10年後には、ある程度県内に一高の成果が認知され、最終目標としてこの活動を一高生だけではなく、すべての高校生に体験できるようなことができればいいと思っています。大きな夢ですね。そういう意味でも教育も変え

齋藤●SGHの活動は、5年間ですよね？ あと3年ですね。



赤池校長 ● それは県の姿勢によりますね。みなさん(一高のOB)が、県に対し、すこし教育にお金をかけてはどうかと言つていただければ、知事さんもひょっとして動いてくれるかもしだせん(笑)。

齋藤 ● SGHの指定期間が10年くらいあれは良かったですね。

赤池校長 ● 5年間の活動が終わると資金援助は確かに減るかも知れませんが、そのノウハウとかやり方というのを一高で吸収して、資金が仮に減つても、できる範囲の中でそれに近いことをやっていくことが大切だと思っています。

古河教頭 ● あと3年間だけしかないですけれども、将来、ここで育った生徒がいろいろなところでリーダーになると思います。そういう子がまた講演

赤池校長 ● それは県の姿勢によりますね。みなさん(一高のOB)が、県に対し、すこし教育にお金をかけてはどうかと言つていただければ、知事さんもひょっとして動いてくれるかもしだせん(笑)。

齋藤 ● SGHの指定期間が10年くらいあれは良かったですね。

齋藤 ● 県が何かしてくれるということはないんでしょうか。

赤池校長 ● 教育はお金がかかりますからね。学校の先生だけでやるには限界があります。将来を担う子供たちへの相応の投資ができるような国であつてほしいと思います。

齋藤 ● 今の先生方は大変ですが、やりがいがありますね。

野澤先生 ● 大変な面はもちろんありますけれども、やはり生徒の意識が変わつたり、成長してきています。われわれとしましても、ほかの高校では経験できないことが、できているということは、非常に素晴らしいことだと実感しています。

齋藤 ● 大変で負担だなんて思っていたら絶対できないですね。

赤池校長 ● 先生も伸びるんです。今まではどちらかというと、自分が大学まで勉強してきた知識を少しづつ教えていればよかったのが、もうこれからは先生方も勉強していくかないとやつていけません。生徒たちにこされてしまします。いい刺激になるのでは。大変だけれども。

以上

Boys Be Ambitious

global



取材担当者

第136周年

甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会 記念誌部会

昭和59年卒 齋藤 茂樹
長坂 克彦
鈴木 雅巳
諏訪 真弓

取材日 平成27年11月17日

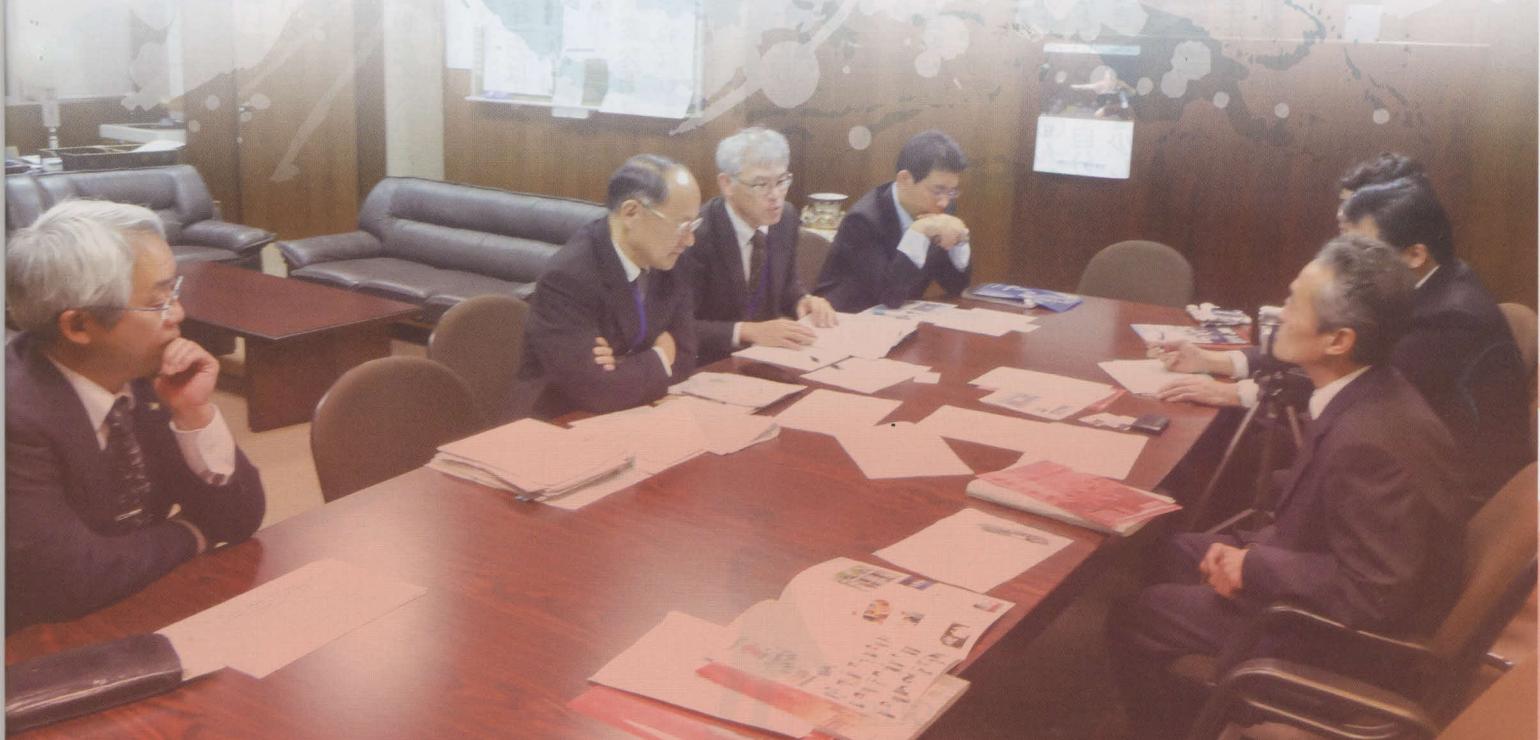
特集
1

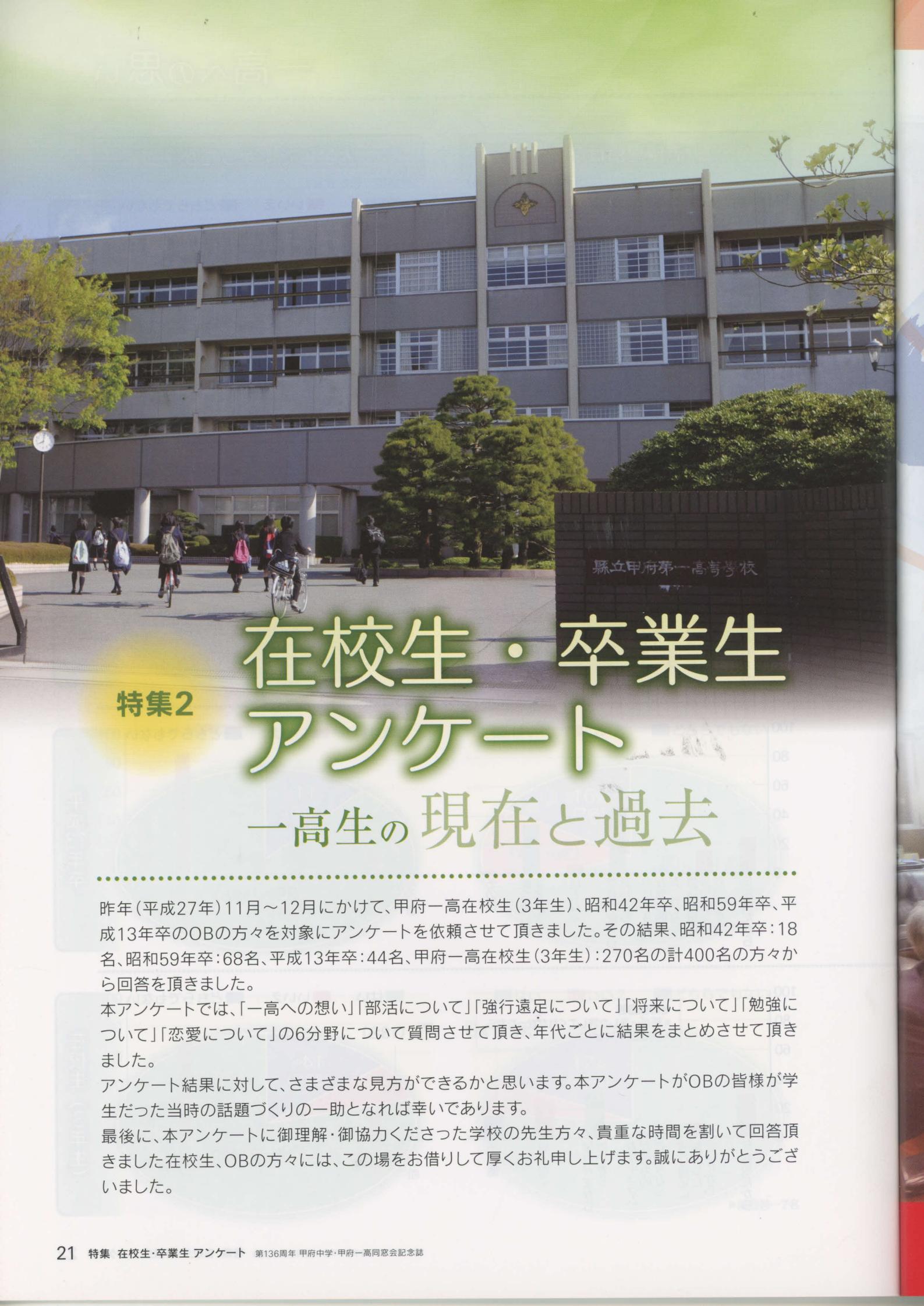
新しく
スタート
しました！

探究科

座談会

完





県立甲府第一高等学校

特集2

在校生・卒業生 アンケート

一高生の現在と過去

昨年(平成27年)11月～12月にかけて、甲府一高在校生(3年生)、昭和42年卒、昭和59年卒、平成13年卒のOBの方々を対象にアンケートを依頼させて頂きました。その結果、昭和42年卒:18名、昭和59年卒:68名、平成13年卒:44名、甲府一高在校生(3年生):270名の計400名の方々から回答を頂きました。

本アンケートでは、「一高への想い」「部活について」「強行遠足について」「将来について」「勉強について」「恋愛について」の6分野について質問させて頂き、年代ごとに結果をまとめさせて頂きました。

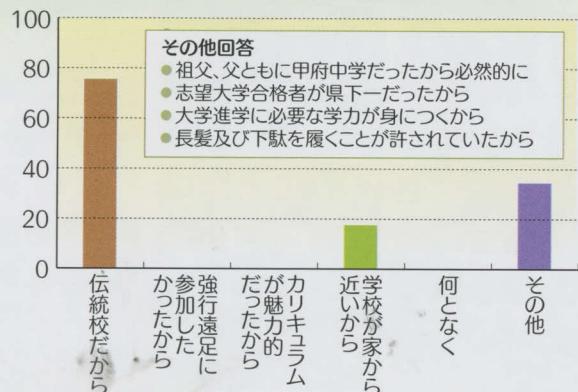
アンケート結果に対して、さまざまな見方ができるかと思います。本アンケートがOBの皆様が学生だった当時の話題づくりの一助となれば幸いです。

最後に、本アンケートに御理解・御協力くださった学校の先生方々、貴重な時間を割いて回答頂きました在校生、OBの方々には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

一高への思い

志望理由は？

(複数回答 単位%)

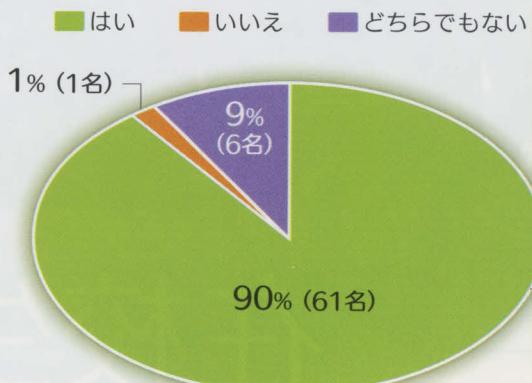
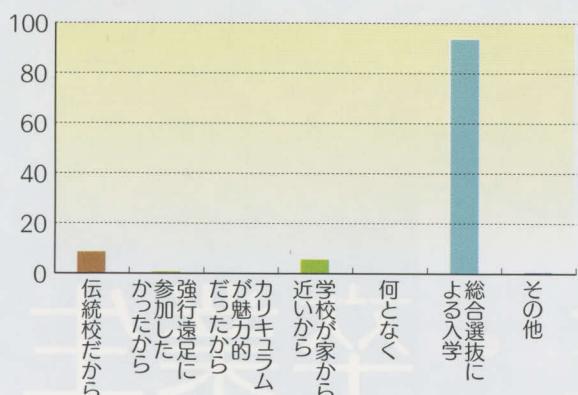


入学してよかったです？

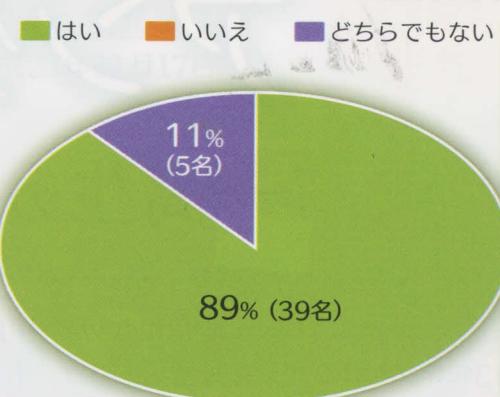
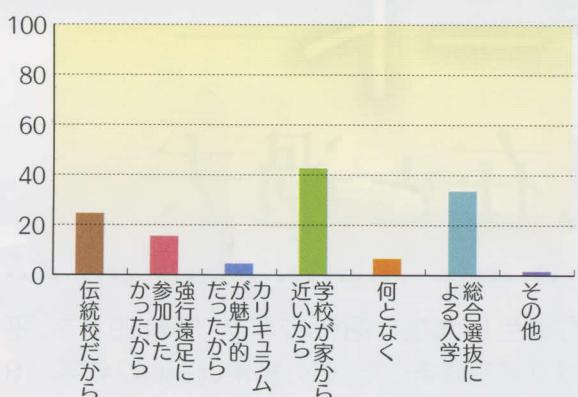
■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない



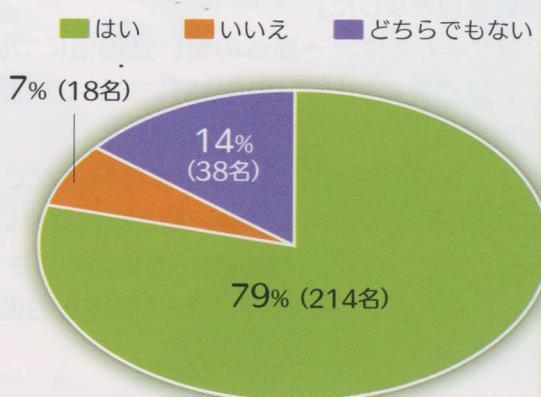
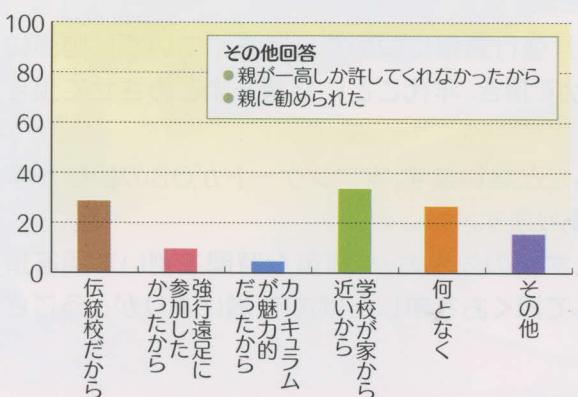
昭和42年卒



昭和59年卒



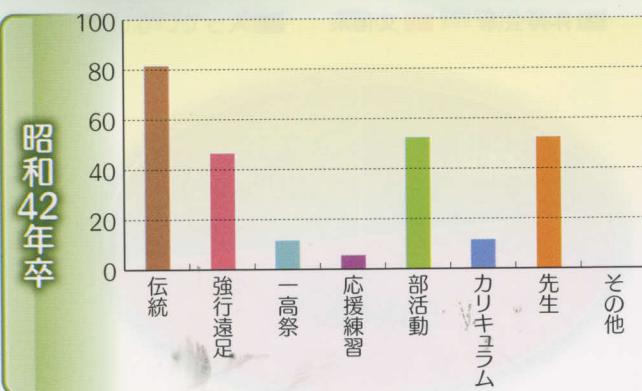
平成13年卒



在校生(3年生)

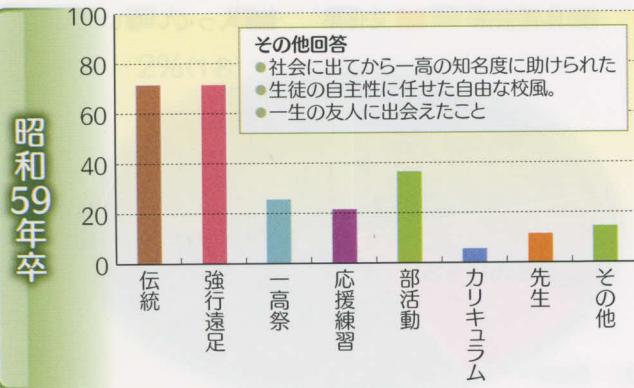
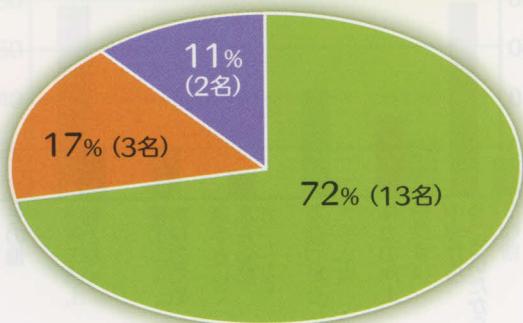
一高に入って良かったと思うものは?

(複数回答 単位%)

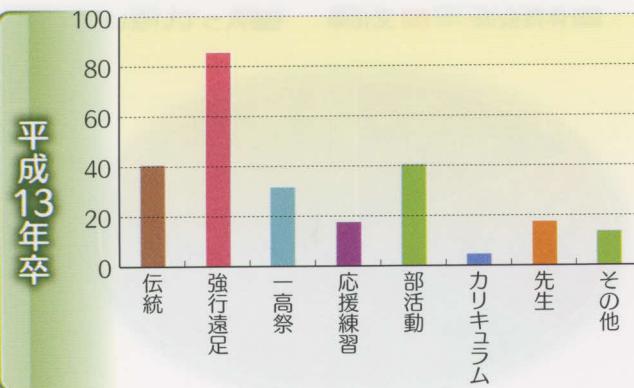
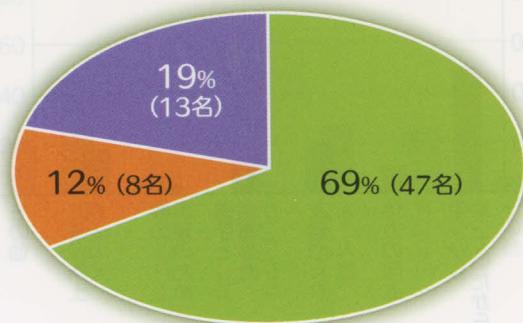


高校生活に満足しているか?

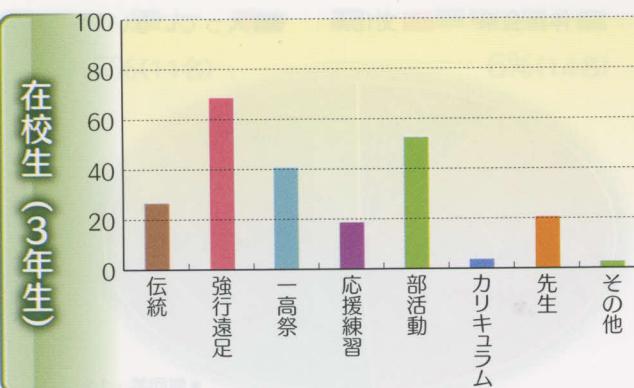
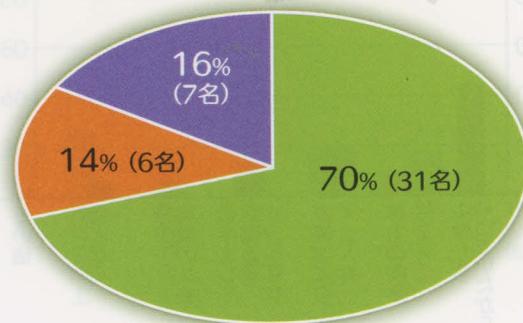
■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない



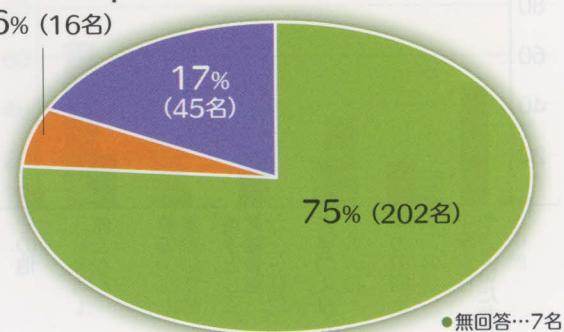
■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない



■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない

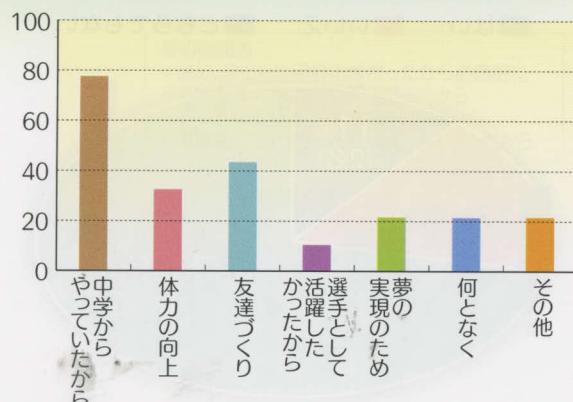


■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない



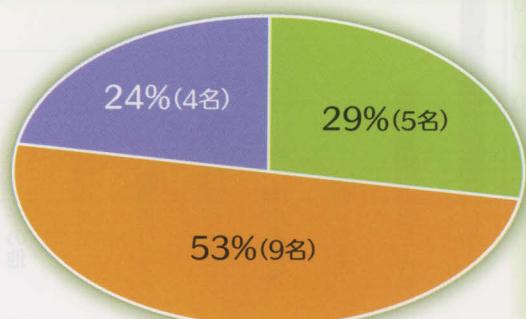
部活に入った理由は?

(複数回答 単位%)

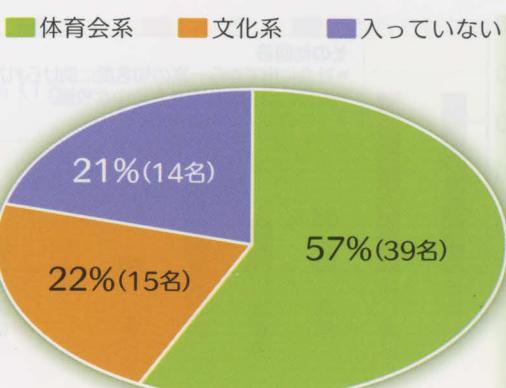
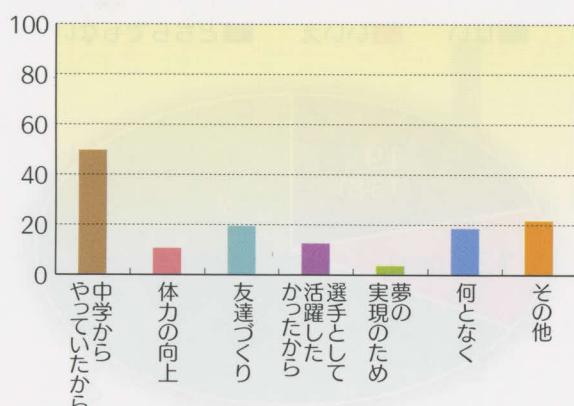


部活に入っていましたか?

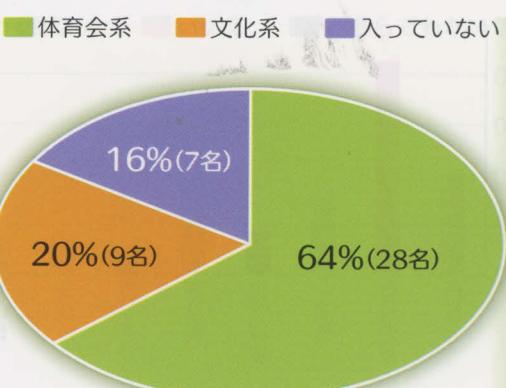
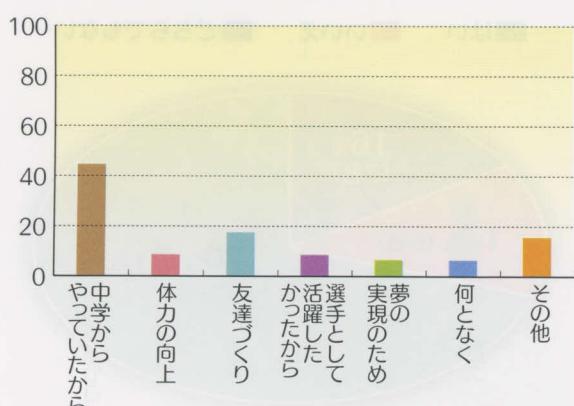
■ 体育会系 ■ 文化系 ■ 入っていない



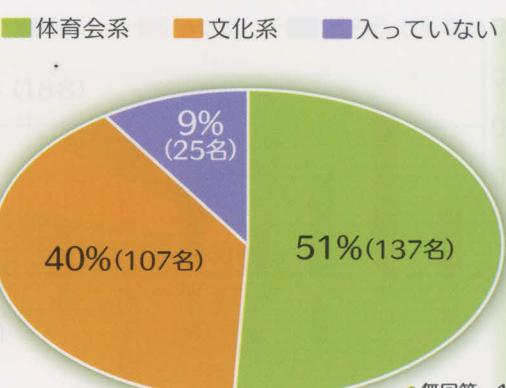
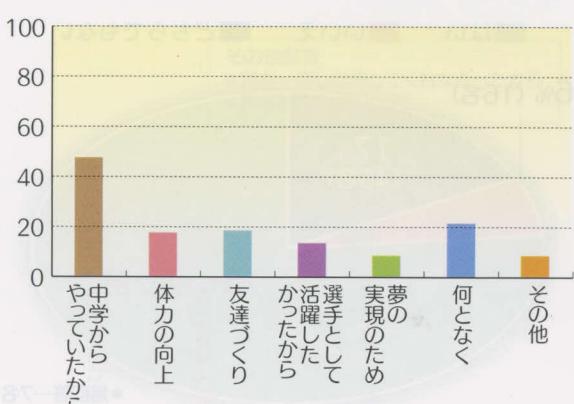
昭和42年卒



昭和59年卒



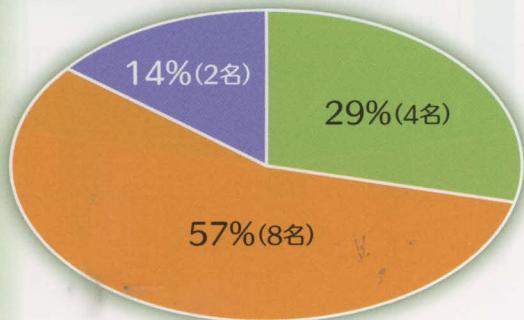
平成13年卒



在学生(3年生)

部活への意気込みは？

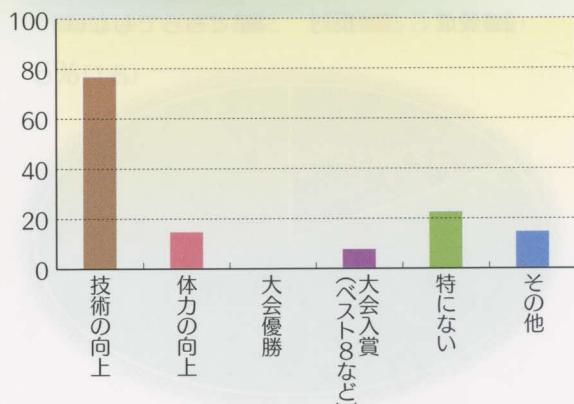
■大 ■中 ■小 ■特にない



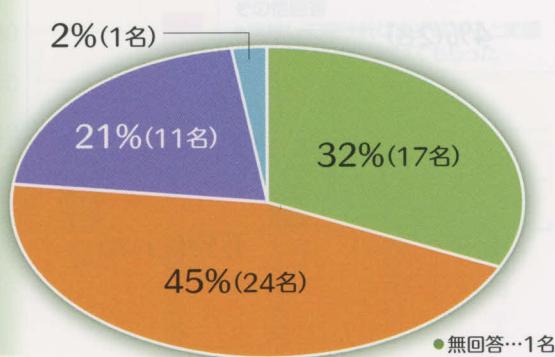
昭和42年卒

部活での目標はあったか？

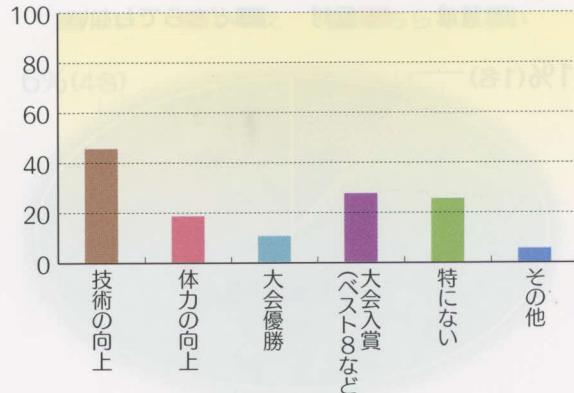
(複数回答 単位%)



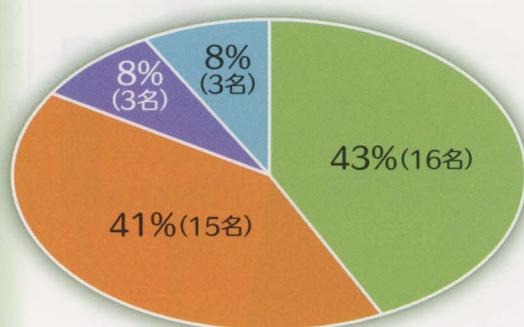
■大 ■中 ■小 ■特にない



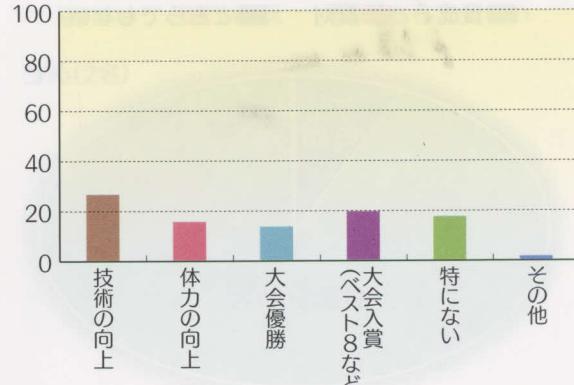
昭和59年卒



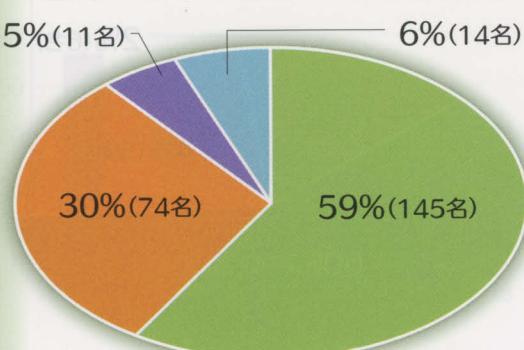
■大 ■中 ■小 ■特にない



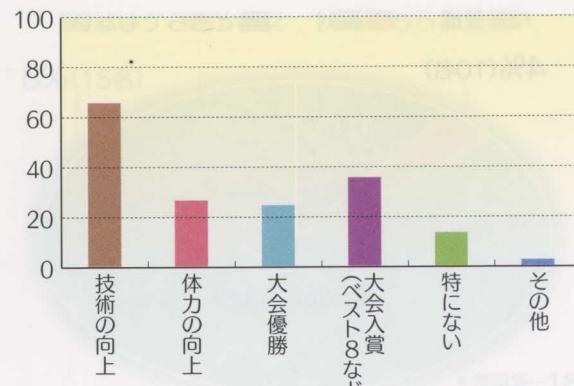
平成13年卒



■大 ■中 ■小 ■特にない



在校生 (3年生)

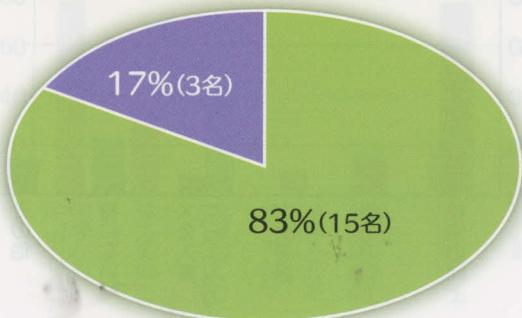


強行遠足

部活動

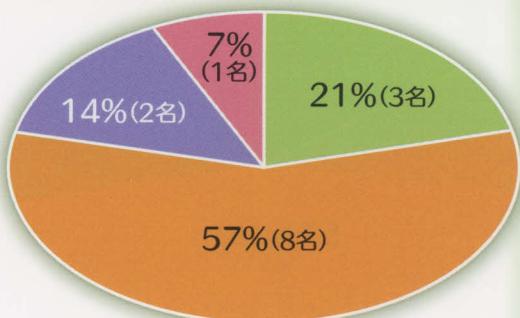
強行遠足について？

■賛成 ■反対 ■どちらでもない



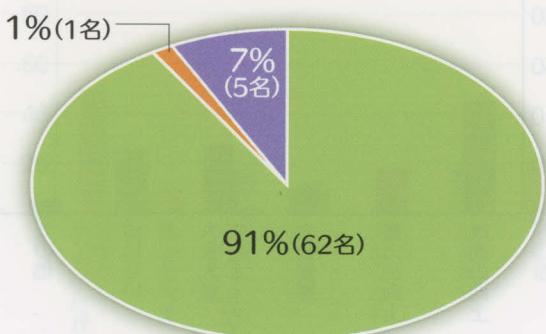
部活の一日あたりの平均活動時間は？

■1時間未満 ■1~2時間 ■2~3時間 ■3時間以上

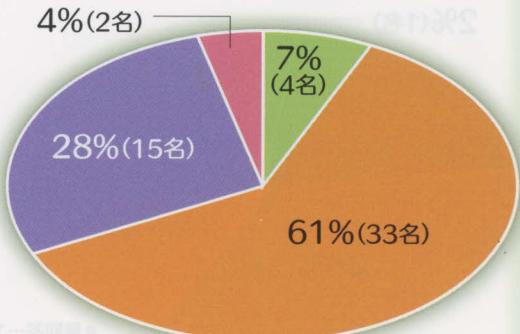


昭和42年卒

■賛成 ■反対 ■どちらでもない

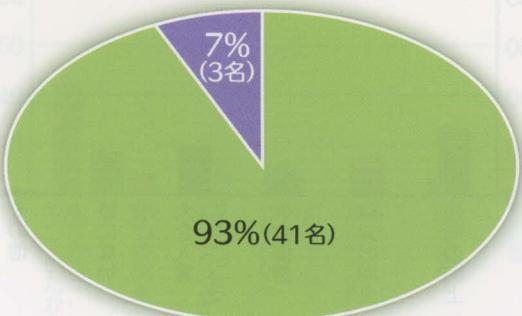


■1時間未満 ■1~2時間 ■2~3時間 ■3時間以上

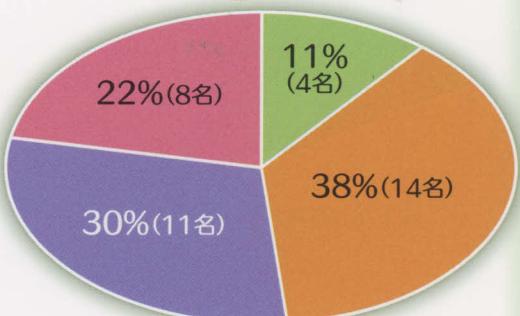


昭和59年卒

■賛成 ■反対 ■どちらでもない

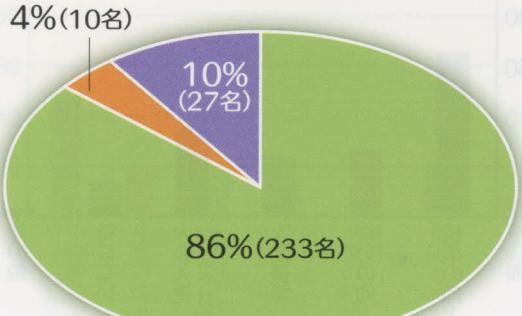


■1時間未満 ■1~2時間 ■2~3時間 ■3時間以上

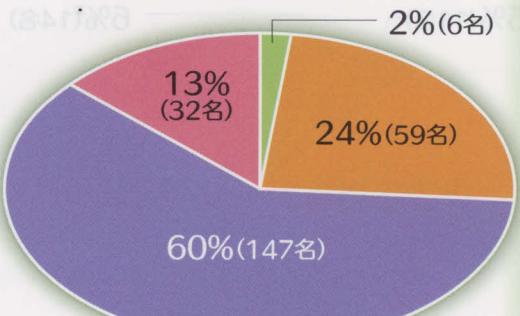


平成13年卒

■賛成 ■反対 ■どちらでもない



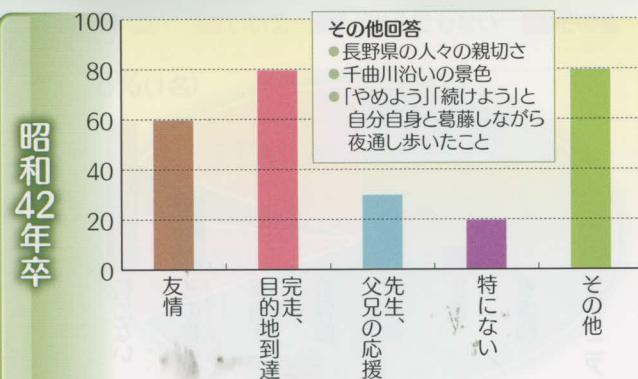
■1時間未満 ■1~2時間 ■2~3時間 ■3時間以上



在校生（3年生）

強行遠足で印象深かったことは?

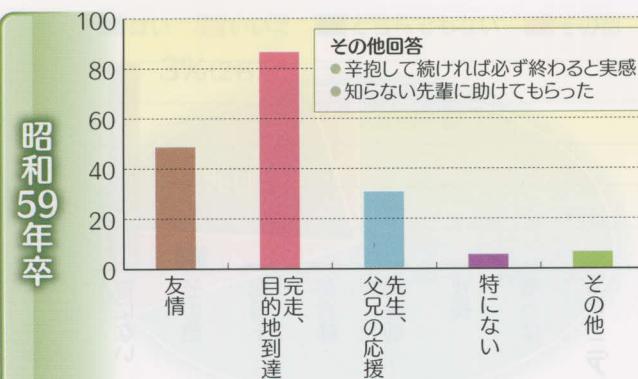
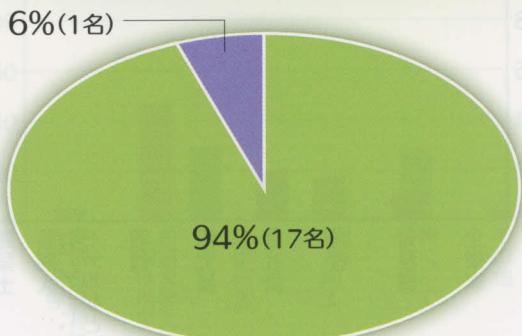
(複数回答 単位%)



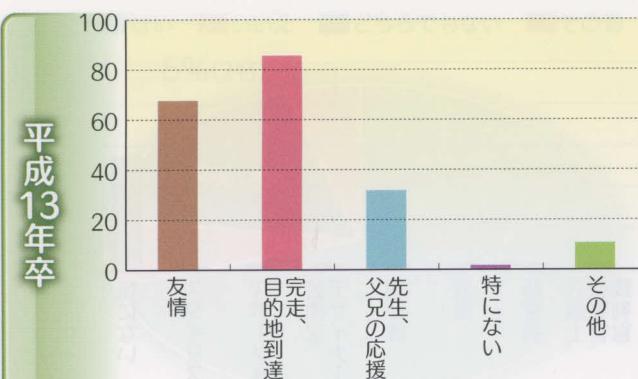
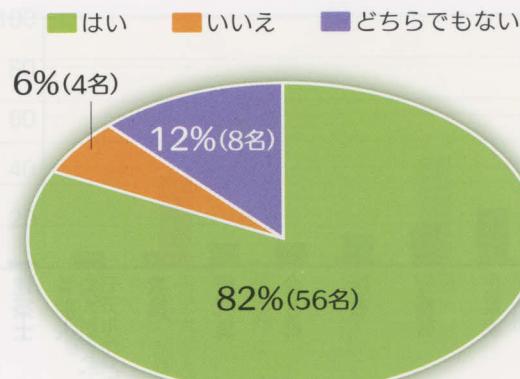
昭和42年卒

強行遠足が役に立つと思うか?

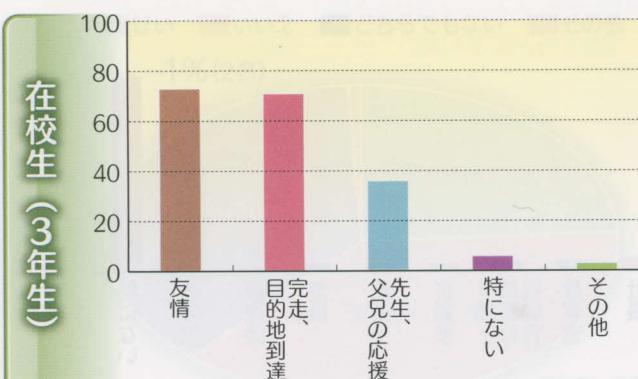
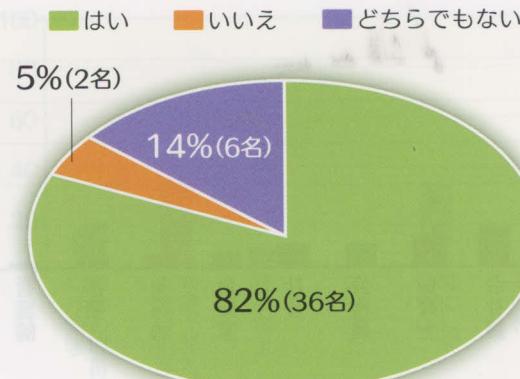
■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない



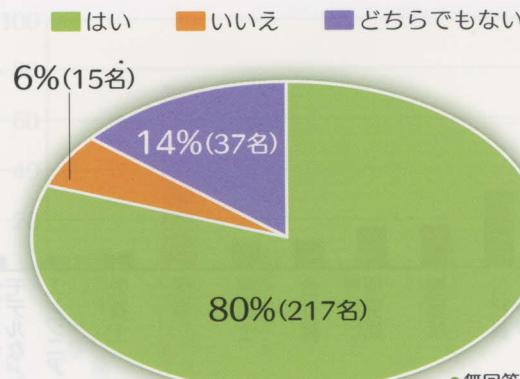
昭和59年卒



平成13年卒

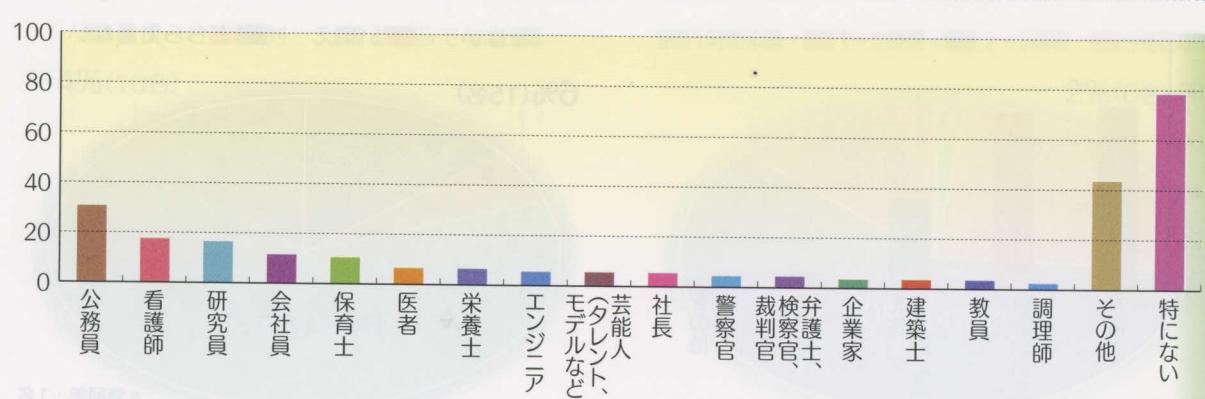
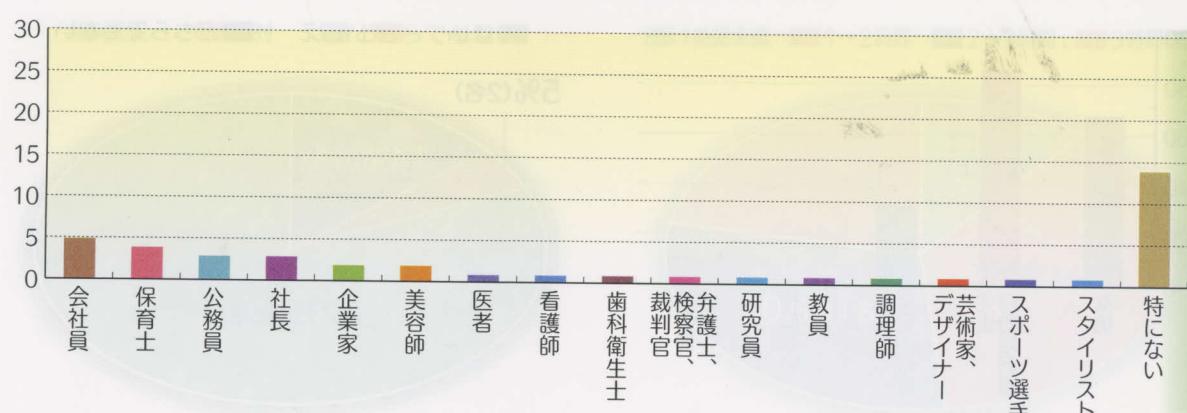
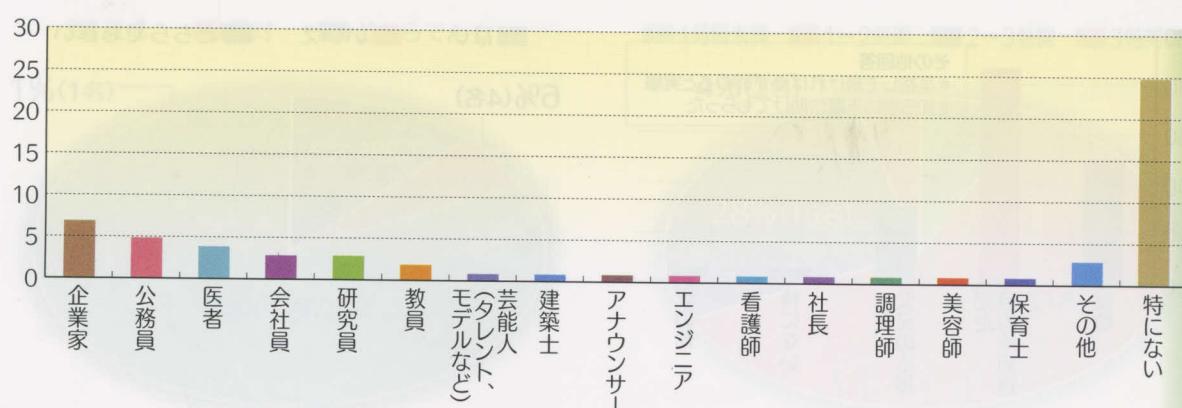
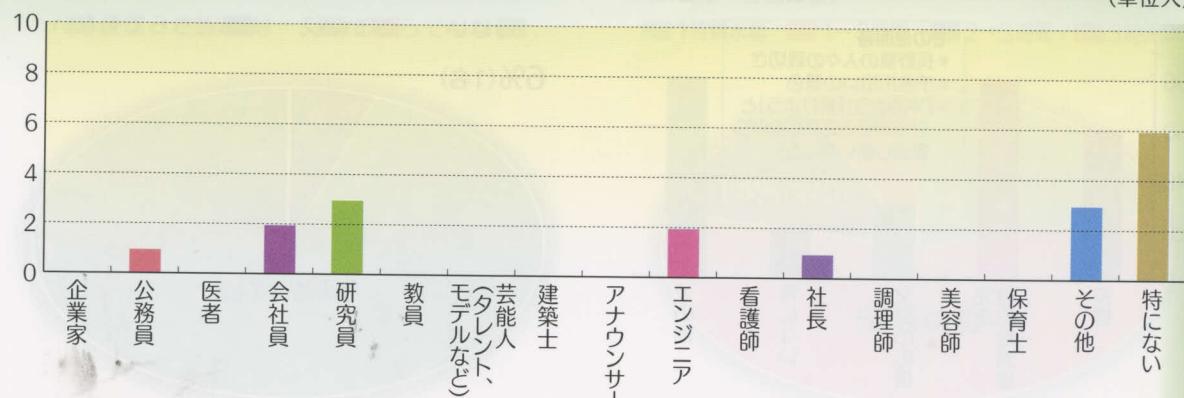


在校生 (3年生)



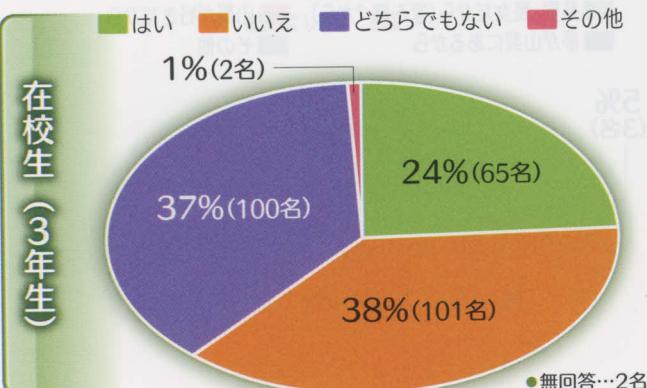
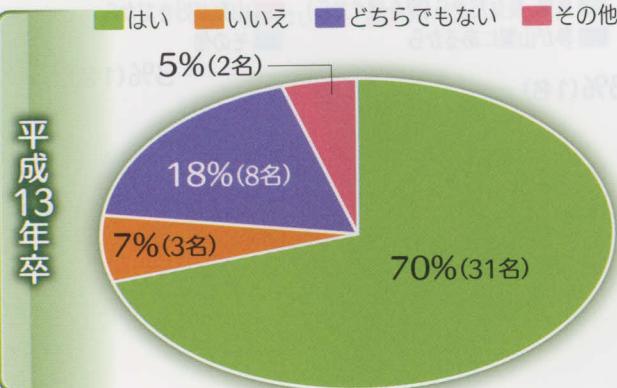
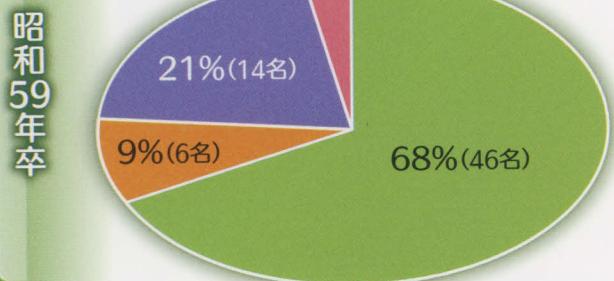
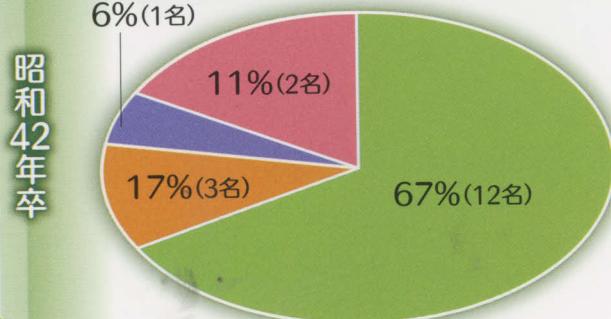
将来の夢はあるか？

(単位人)



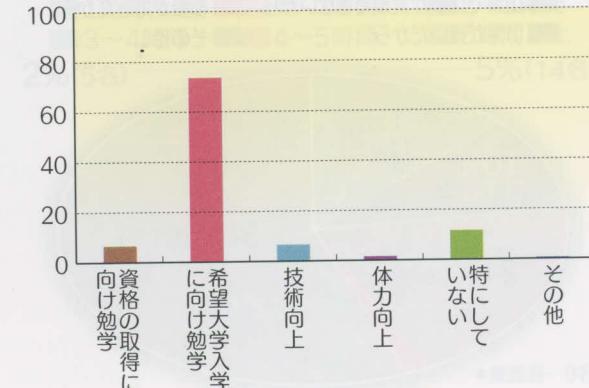
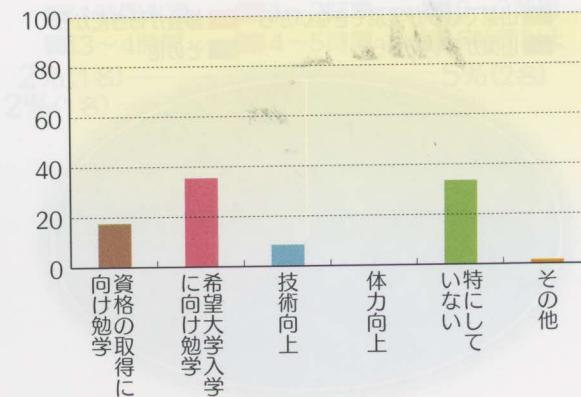
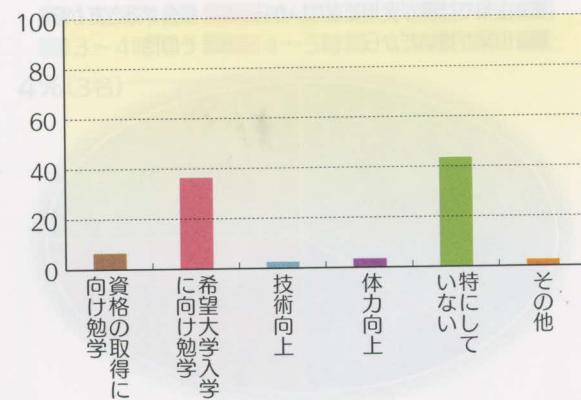
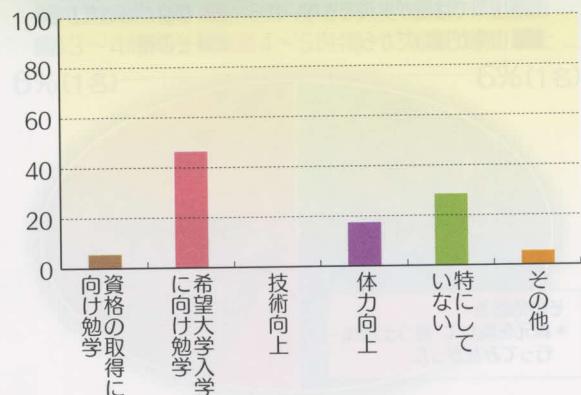
今後も山梨に在住したいか？

■はい ■いいえ ■どちらでもない ■その他



夢実現のため何かやっていましたか？

(複数回答 単位%)



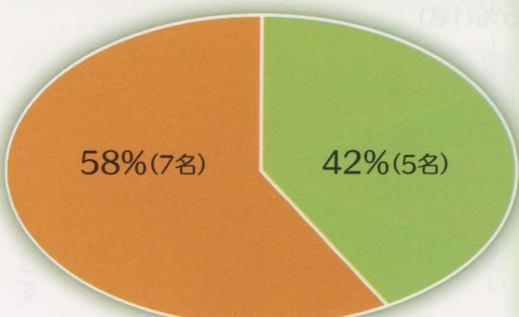
県外への出ることを考えている理由は?

■山梨では夢が実現できないから ■都会が好きだから
■山梨が嫌いだから ■その他



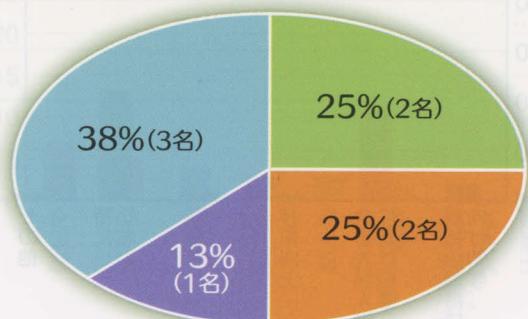
山梨に在住する理由は?

■長男、長女だから(家を継ぐから) ■山梨が好きだから
■夢が山梨にあるから ■その他

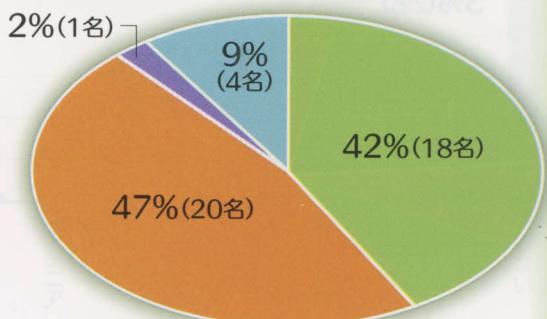


昭和42年卒

■山梨では夢が実現できないから ■都会が好きだから
■山梨が嫌いだから ■その他

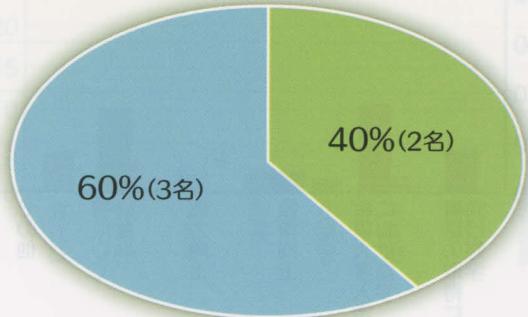


■長男、長女だから(家を継ぐから) ■山梨が好きだから
■夢が山梨にあるから ■その他

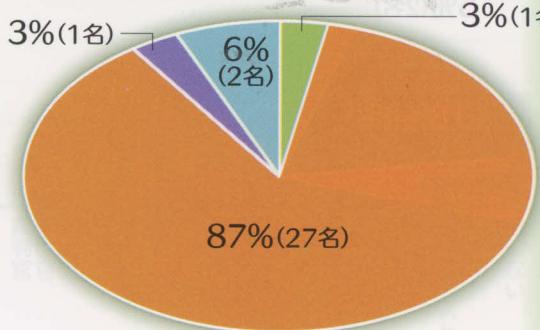


昭和59年卒

■山梨では夢が実現できないから ■都会が好きだから
■山梨が嫌いだから ■その他

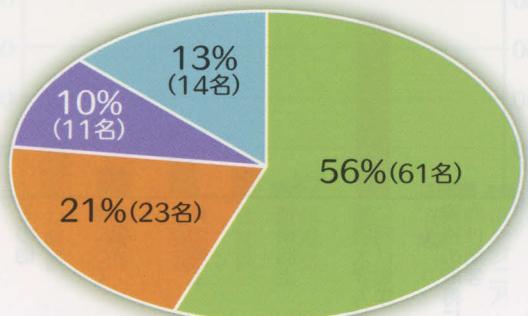


■長男、長女だから(家を継ぐから) ■山梨が好きだから
■夢が山梨にあるから ■その他

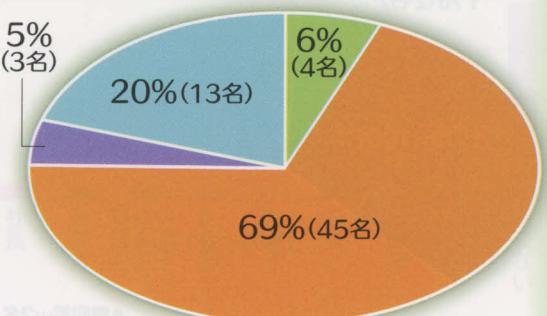


平成13年卒

■山梨では夢が実現できないから ■都会が好きだから
■山梨が嫌いだから ■その他



■長男、長女だから(家を継ぐから) ■山梨が好きだから
■夢が山梨にあるから ■その他



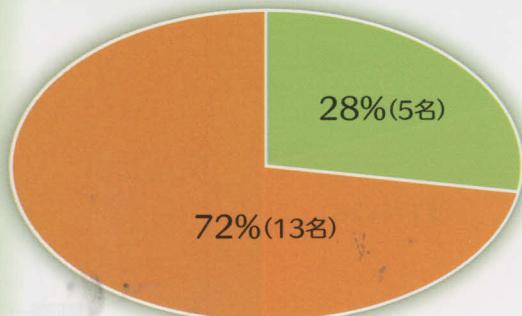
在校生(3年生)

昭和42年卒

塾に通っていたか？

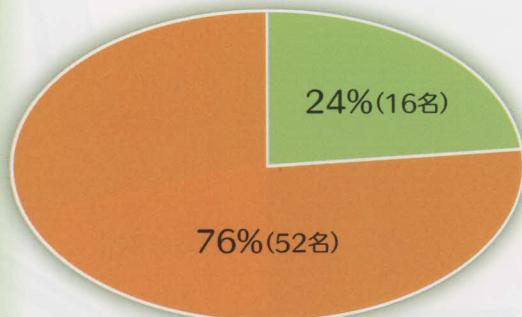
(複数回答 単位%)

■はい ■いいえ



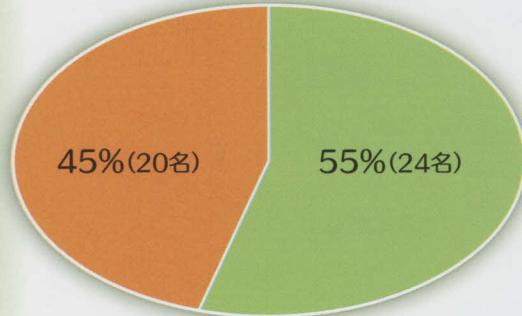
昭和59年卒

■はい ■いいえ



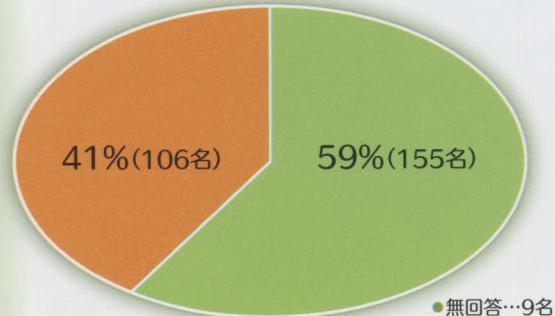
平成13年卒

■はい ■いいえ



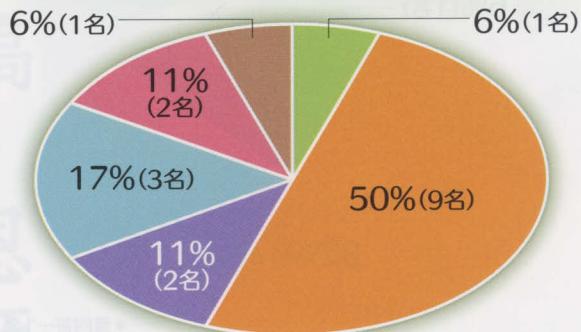
在校生（3年生）

■はい ■いいえ

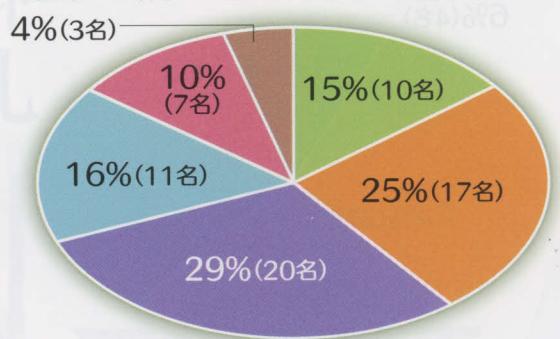


1日あたりの平均勉強時間は？(高校3年時)

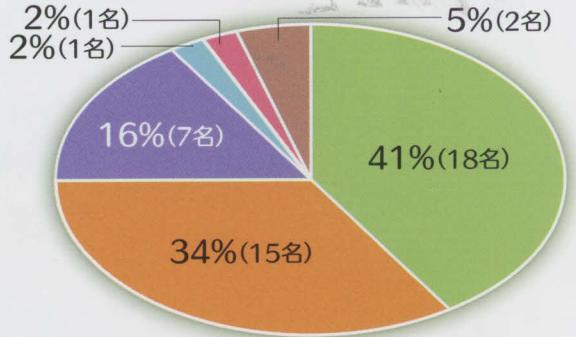
■1時間未満、■3~4時間 ■4~5時間 ■5時間以上



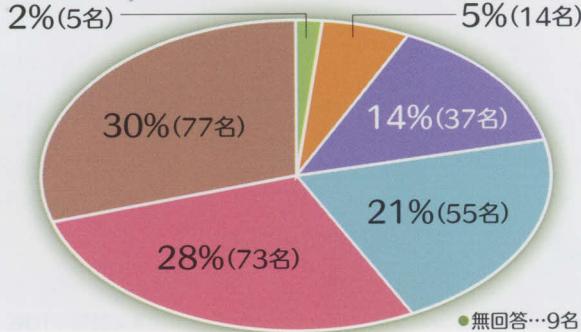
■1時間未満、■3~4時間 ■4~5時間 ■5時間以上



■1時間未満、■3~4時間 ■4~5時間 ■5時間以上



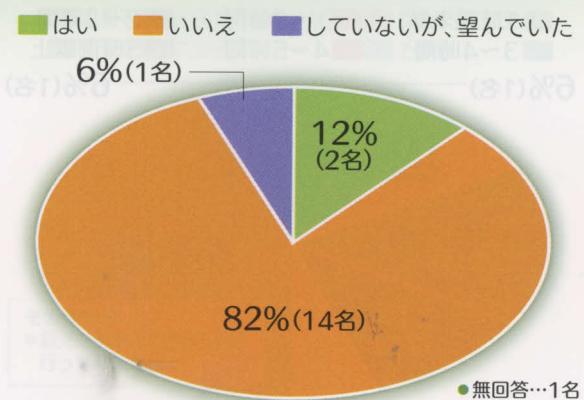
■1時間未満、■3~4時間 ■4~5時間 ■5時間以上



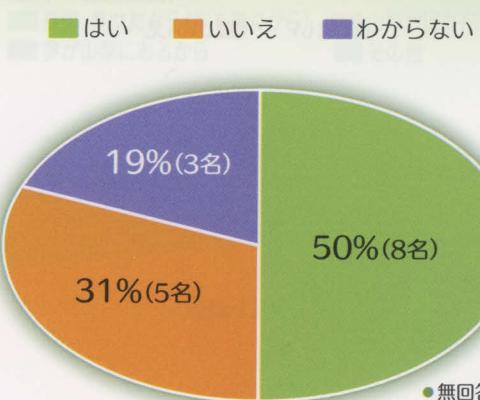
恋 愛

勉 学

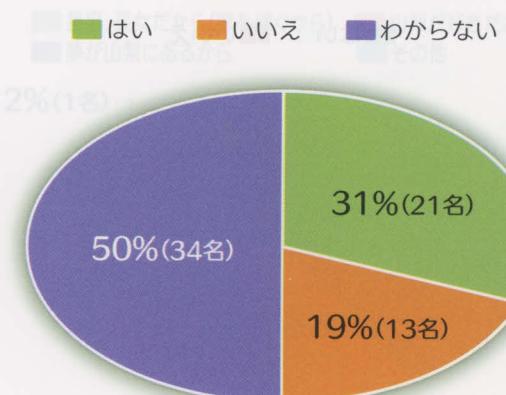
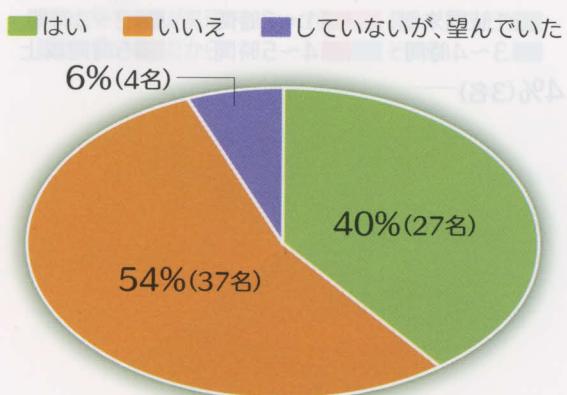
異性と交際していたか？



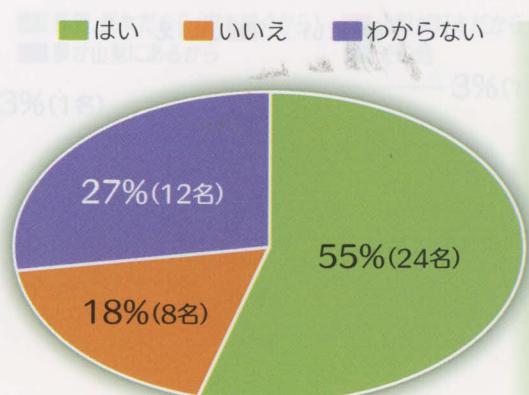
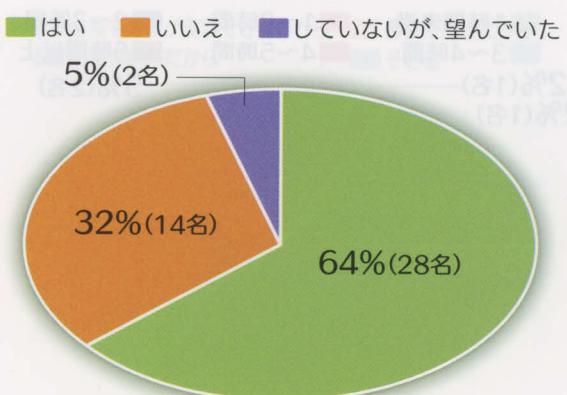
勉強と部活の両立はできていたか？



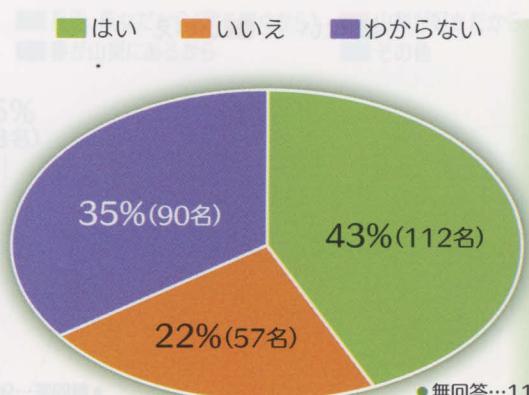
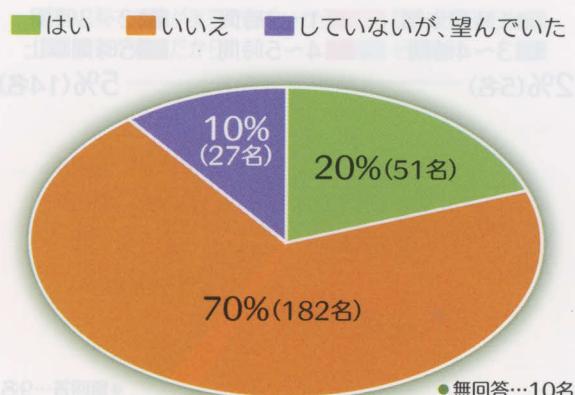
昭和42年卒



昭和59年卒



平成13年卒



在校生（3年生）

恩師寄稿・恩師御礼





甲府一高の歩みの中で

三年一組 担任

輿石順一

私は甲府一高に二度勤務した。最初は昭和五十七年赴任、高校急増期終盤の四校総選期から英語科が誕生するまでの十年間である。

二度目の勤務は、平成十一～十二年（1999～2000年）、私の教職生活最後の二年間である。西暦2000年は甲府一高創立百二十周年のメモリアルな年であった。私は校長として、職員、生徒、PTA、同窓会、関係各位の協力をいただき、創立百二十周年の式典、記念音楽祭、記念絵画展等、盛大に、厳粛に行い、様々な他の行事も無事済ませ、最後の任を終えた。

このような時に、甲府一高の歴史を振り返り、伝統や、甲府一高のあるべき姿を考えることは大切である。これに関し、感銘を受けたことがあるので少し触れてみたい。

平成十一年（1999年）の七月、毎日新聞甲府支局の三橋という記者が、甲府一高を訪ねてきた。「来年（西暦二千年）は創立百二十周年と聞いている。支局から特命を受け、『甲一物語』をおよそ一年間に亘り間欠的に連載したい。取材に協力して欲しい。」という要請であった。甲府一高にとつて願いもない申し出であった。

『甲一物語』といえば、かつて創立八十五周年を記念して、当時の『山梨時事新聞』が同じタイトルで連載し、それは五百五十九ページにも及ぶ分厚い冊子にまとめられ刊行されている。日

今回、毎日新聞に連載されることになれば、甲府一高は広く県下に紹介され、PR効果は計り知れないものがある。また、私たちにとつても甲府一高を知る良い機会になる。三橋記者には喜んで取材の協力を約束した。

三橋記者はその後何度も一高を訪れ、資料の収集や取材を行った。日が経つにつれ、取材は広範におよび、甲府一高の歴史ドラマを作り、また、それらに関わった多くの人々に対しても行われている様子だつた。彼は、甲府一高はどのような存在なのか、甲府一高の伝統とは何なのかを追求していた。ある日、私に「甲府一高の伝統はなんですか」と端的に聞いてきた。私は「君はどう思っているか」聞き返した。彼は「新聞に書いてみます」と答え、すでに彼なりの把握をしている様子であった。

西暦二千年的元旦、毎日新聞の山梨版全二面は、「『自由』校風に百二十年」、「『紳士たれ』新世紀へ」の見出で、『甲府一高物語』の特集で埋められていた。

新たな千年纪の幕開けに、何故甲府一高を取り上げたかについては、次のように書かれていた。『県内最古の甲府一高は創立百二十周年を迎える。送り出した卒業生は三万余人、総選制導入でエリート化は崩れたがクラーク博士の名言『紳士たれ』の影響を受けた校風は今も脈々と受け継がれている。日本、そして山梨を支えてきた「一高」の歩みを通じ

て山梨県の二十一世紀への歩みとしたい。』

『甲府一高物語』は一月四日の第一部の掲載を皮切りに、十一月四日まで全体を四部構成にし、述べ三十四回にわたり連載された。内容は、甲府一高の築いた歴史の断面をさまざまな角度から描いたものであり、甲府一高の伝統や校風の形成の様子が伺えるものであった。

三橋記者はこの連載を通じて、あることに着目していた。それは彼の取材の様子から推測されるのが、生徒自治会の活動とその自主性である。生徒自治会はこれまで生徒の意見や主張を統合し、学校に訴えてきた。予算の編成や運営、一高祭への取り組みの主体性がある。また、新聞部にも関心を寄せていた。新聞部の掲げる問題は構内にとどまらず、政治、経済、文化の各方面におよび、自分たちの意見を正々堂々と主張してきている。

学校にも生徒の意見を聞く土壤ができる。こうした作用が複合的にはたらいているのが甲府一高ではないか、長い歴史の中で培われた良い校風が、そこに学ぶ生徒に人間的な成長を促し、次代に受け継がれていく、そうした営みが伝統なのではないのだろうか。

三橋記者が究明した甲府一高の伝統は、毎日新聞元旦号の見出しそのものではないだろうか。



語りつかせない思い出

三年二組 担任

松土 清

十年がひと昔ならそのひと昔を三回も繰り返すほどの時が過ぎてしまいました。皆さんには今や社会の中心となって、いろいろと大きなものを背負いつつ「日に新た」頑張っていることと思います。私が皆さんに出会ったのは私がまだ30歳そこそこの頃でした。現在の皆さんより20年も年下で随分若輩者の教員だったと思います。今振り返れば英語の授業も学級経営も部活指導もさぞや未熟だったと思います。

甲府一高にはたくさんの思い出があります。学校が成績処理をコンピュータですることになりました。

した。当時はコンピュータのプログラムを組む人

があまりいない時代で、私がたった一人で全部作れという命を受けました。放課後は連日視聴覚準備室のソードという名のコンピュータの前で蟻人形のように固まつて6時間、壁の時計で0時を確認してから電源を切つて帰宅が1時という日々が続きました。趣味程度のプログラミング技術で実用のシステムを組み上げるわけですから簡単ではありませんでした。試行錯誤を繰り返し、そんな日が3か月も続きました。ストレスフルな期間でしたが同僚からの励ましや気遣いの言葉が嬉しくてなんとか乗りきりました。これは皆さんの全く知らない私の思い出です。

部活動にも語りつかせない思い出があります。空手部やテニス部の他に季節限定でスキー部の顧問を

ただ若いからという理由だけで拼命しました。年末には合宿、新年には高体連大会、そのまま連続して県選手権、そして必ず関東大会とインターハイ。一高にいる間はずつと年末年始の3週間は白馬や県外で過ごすことになりました。インターハイでは全国の監督達が大回転の競技コースを事前に滑降する「監督インスペクション」という場面がありました。スキーが得意で監督になつたわけではない私にとっては清水の舞台から飛び降りる思いでした。選手たちと寝起きを共にし、様々な顔を見せる冬山の自然を堪能できることは一生の財産です。

一高の多くの卒業生がそうであるように私にとっても強行遠足に纏わる思い出は忘れることはありません。在任中の私の任務地は毎年清里と決まっていました。そこには特別な任務が付随しておりここでもまた私は若いからという理由だけでおりこそこでもまた私は若いからという理由だけで配置されました。検印所のテントを張り、大きな鍋にお湯を沸かすなどの作業の傍らで無線機が男子達の動向を刻々と伝えてきました。一群が清里に近づくにつれ高まる緊張と興奮は、身が引き締まるような清里の空気、薪の燃えるパチパチという音や目に沁みる煙と共に今でも体が憶えていました。長い男子検印作業が続き、真夜中に最後尾の生徒を送り出します。さあここからが私の特別任務のスタートです。清里から野辺山までの区間の後尾追行です。疲労しきつた最後尾者は少し歩い

ては座り込みを繰り返すわけですから野辺山に到着するには未明近くでした。しじみ汁をいただき、また清里に舞い戻ると、休む間もなく女子の先頭がやってきました。一つひとつが風化するこのない貴重な思い出です。実際に走った皆さんにはさらに多くのドラマがあつたことでしょう。

さて話は変わりますが、私の両親は大戦中に東京から山梨の山深い場所に疎開し、終戦後もそこに残留することになり私はその地で生まれ育ちました。皆さんが卒業した直後にその場所から引っ越しましたが家と土地は今もそのまま残っています。山の畠には何も作物はありません。何を植えても野生鳥獣に荒らされてしまうからです。でも皆さんが卒業した年に1本の小さな柚子の苗を植えました。その木はその後30年間も一度も実をつけませんでしたが今や大木になり数年前から急に実をつけるようになりました。月に一、二度は山の土地に出かけて家や庭の手入れをしています。クラスの皆さんはその家の隣に大きな松林があつたのを覚えてくれているかと思います。その松林の下刈りや落ち葉処理をしていて一休みするたびに皆さんと楽しんだバーベキューのことを必ず思い出します。この辺に石を組んで炭をおこしたなあなどとあの日の様々なシーンが心に浮かびます。時が過ぎ今や立派に大人になつたはずの皆さんの若い日の残像が松林に今でもたつぱり残っています。



共に学んだ日々

三年三組 担任

輿石 和雄

昭和五十六年四月、学校創立百一年目の年に、私は甲府一高に赴任した。本館校舎一階の床に敷いた油の匂いがする応接室で、異動した六名の先生方が一同に会し、私の貴重な三年間が始まった。

三月三十一日、正門西にあった図書館一階に、駒井政五郎学年主任、雨宮泰明、安藤十三男、中川文明、私、小林仁一、三輪充、中込喜仁、土屋松雄、保坂博則の一学年担当の先生方（クラス順）が集まり、入試成績が均等になる男女九クラスの編成作業を行った。私は四組の担任で教室は西館にあつた。

当時は三学期制で、主な学校行事は、四月に一日二时限を当てた三日間の応援練習、五月には一泊二日の愛宕山こどもの国での宿泊研修、九月には第三十四回一高祭、十月には佐久往還二十周年記念の強行遠足、二月のスキー教室、どの行事も各学期を充実させていた。

強行遠足では、高根から海ノ口まで最終の生徒に車で付き添うことが一年目の私の任務だった。真夜中近くに清里の検印所に報告に行くと、人数が二名不足しているとのこと、急いで来た道を戻ったが道路沿いには見当たらない。途中にジユースの自販機があったことを思い出し暗がりを捲すと、自販機の後方で二人が寝ていた。急いで振り起こして旅館に送り届けた。夜がしらじらと明ける頃、最後尾の生徒と共に、海ノ口の検印

所に着いたあの時の感動は忘れられない。

校長は岩波政雄先生で、私達は厳しく鍛えていた。あれは私が一高に勤務して二年目の五月下旬、三校時の休み時間であつたと思う。私は大職員室で次の授業の準備をしていた。その時職員室のドアが急に開けられ、「生徒の指導はどうなつてているのだ。制服も着ないで、シャツのまま前店に行って、ジュースを飲みながら正門を出たり入つたしいているではないか。」と、大目玉を食らつた。生徒指導係をしていた私は急いで校門に走つた。自転車置場の整備や通学バイクの指導など、在籍二、三年目は生徒指導副主任として奮闘の日々であった。二年生の時のクラス編成は進路希望に応じて文系・理系に分かれ、私は文系クラスの担任であった。三年生では、理系の生徒は英語に、文系の生徒は数学に重点を置きたいとの駒井主任の意向で、私は理系の四十八名のクラスの担任になった。語彙力をつけさせるために、單語テストを頻繁に行うなど大学入試に向けて必死になつた時である。理科は指導できないので、せめてもと思い白衣を着て授業に臨んだことを思い出す。いよいよ受験を迎えた時に、私がお世話になつたお宅に担任する四名の生徒を泊めていただき、東北大の理学部、工学部に全員合格したことを、また開設間もない山梨医大に二名合格したことをなどが記憶に残る。

私は女子バスケットボール部の顧問をしていた。前任校では県内優勝の経験もあつたので運動能力の優れている部員のいた一高を優勝させたいと考えていた。部員数は三十名に増えたが優勝を果たせずに三年で新設高校への異動となつた。甲府学区は昭和五十九年度から甲府昭和高校が加わり、五校の総合選抜となつた。新設校に異動した私は、甲府一高での経験は貴重なものであつた。学年主任として、一緒に異動した雨宮泰明先生と学年の様々な企画をした。修学旅行の名称も「研修旅行」とするなど、名称も内容も一高にない充実させた。夏季休業中に実施した五泊六日の宿泊学習会には、一高の私のクラスから難関を突破した卒業生七名に補助してもらつた。先輩のいない学校の一年生が、学び方を学ぶように企画したものである。この企画は、後に東大、京大など国公立大学に七十名に及ぶ合格の基になつたと思う。

甲府一高がこれからも県下の高校教育の範として発展するとともに、昭和五十九年卒業の皆様のますますの御活躍を祈ります。



甲府一高・三回の出会いに感謝

三年九組 担任

田中資時

私にとって、甲府一高との最初の出会いは、今か

私にとつて、甲府一高との最初の出会いは、今から六十年前の十五歳の時にさかのぼります。田舎の中学校を卒業して、甲府一高の正門を通過した時のこと、前庭ロータリーの五本の糸ひば越しに見える

薄茶けた三階建ての威厳に満ちた校舎、左手には古めかしい講堂、右手には大きな体育館が鎮座する佇まいに圧倒される思いでした。喜びの入学式から卒業するまでの高校生活において、何かの折りに不出来な自分を振り返り、甲府一高生として恥ずかしくない自分になりたいと真剣に考えることもありました。多感な年頃を甲府一高で高校生活を送ることができたことは、その後の人生の礎となりました。

二度目の甲府一高との出会いは、甲府南高校との総選が始まる前年の昭和四十二年、二十四歳の時に教員として母校に赴任した時でした。歳若くして憧れの母校に勤務できる喜びは格別なものがあり、心底から頑張ろうとの決意を固めました。当時学生運動が盛んな折りで高校にもその影響があり、甲府一

高でもその対応に苦心するところもありました。このような状況下、そうそうたる教師陣からなる生徒会係の一員として、失敗を恐れず諸先輩のご指導を仰ぎながらその任に当たりました。ともあれ、

憧憬する母校に勤務できるようこびは絶大で、授業研究・校務分掌・H.R.担任・部活動・学校行事等のそれに、全力を傾注したという自負があります。ねばり強く懸命に取り組めばそれなりの成果が得られ、授業やH.R.運営等実践のまとめを学校の研

究紀要に積極的に寄稿しました。

究紀要に積極的に寄稿しました。このようにして、教員として母校に勤務できる喜びを噛み締めながら充実した四年間を過ごし、早いうちにと遠隔地勤務を希望しました。

的に参加するをあけました。覚えていたでしょ
か。これらを実現していく方法として、班編成をし
て班を中心とした取り組みです。日直も班単位とし
て一週間の目標を定め、日誌、黒板管理、清掃の実
施点検等班内で役割を決め、日直としての務めを果
たしました。HR日誌には各自が記載を丁寧にして
くれてあります。私も備考欄に赤ペンで所感を書き
ました。毎日のHR日誌を読むのが楽しみでした。
家庭学習累積表覚えていますか。毎日の家庭学習時
間を記入したものです。一週間毎に担任に提出して
それを担任が累積し一覧表にしたもので。今手元
にその記録一覧表がありますが、みんなの家庭学習
時間の状況が分かります。ここにもう一枚夏休みの
家庭学習累積一覧表があります。夏休みの計画を立
て毎日の学習状況を担任にはがきで報告すること、
担任は夏休み中三回HR通信を封書で書き送る約束
でした。これで夏休み中のみんなの動向が把握でき
ました。・・・あの頃から既に三十二年が経過し五
十歳を迎えた皆さんには、悲喜こもごもいろいろな
人生経験を積まれた事でしょう。人生のゴールはま
だまだ先です。甲府一高に学んだことに誇りを持
してますますご活躍ください。

終わりに、母校甲府一高のさらなるご発展をお祈りするとともに、今回の同窓会幹事担当の昭和五十九年卒業の皆様の、これまでのご苦労に対しても深甚なる敬意を表し結びとします。

恩師御礼

3年1組恩師 興石 順一先生

赤澤 泰

理系男子ばかりのクラスの担任は、物理学の先生で空手の有段者でもあります。細身の長身、いつも背筋の伸びた姿勢で颯爽と教壇に立っていた姿が思い出されます。

当時、2年生、3年生と2年間続けて男子クラスを担任されたのには、何か思惑があつたのかと、訝つてしまつこともありますが、その思惑は見事に当たつたと言えるでしょう。曲者ぞろいで、共学ながら女子の居ないクラスにおいて、遠慮なく好きなことを始める男子クラスを二つにまとめ、各人の個性を活かしながら将来に向かわせる指導は、相当の胆力を必要としたのではないかでしょか。今、自身がこの年齢になりはじめてわかつてくることでした。

大きな声を出して怒ることなどは一切ありません。怖い顔で睨むようなこともあります。普段はとても温厚な紳士です。しかし、時に悪ふざけが過ぎた私たちに対しても、鋭い視線が向けられます。すると、自然と誰しもおとなしくなります。視線でその場を收めるその貴様はやはり只者ではないとクラスの皆が感じていたはずです。

細面でハンサムな先生は、女子には非常から知りました。もちろん、男子からもおかげでいましたが、駆馬のような男子たちの手綱をしめる必要があるので、厳しい面も持ち合わせていました。必要なときだけ厳しさが表に出ます。その厳しさの奥には、我々に対する優しさがあつたのだ、これも今になれば容易に解りますし、感謝の気持ちが湧いてきます。

興石先生は、平成11年に第31代甲府一高

の校長先生となれます。さらに、山梨県の教育委員長など重責の職務を歴任されます。このことでも先生の「すごさ」がご理解いただけたと思います。懐が深く、大きな目標となる先生でした。このような先生を担任に持てたこと、先生のクラスで高校生活を送れた幸運をありがたく思います。

先生の益々のご健康とご活躍を祈念するとともに、ここに、改めて感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

3年2組恩師 松土 清先生

天川 美紀

カツカツカツ…石の廊下を革靴の音。木の床とワックスとのミスマッチな香り…あの独特な感じは、三十有余年経つた今でも、はつきりと思い出せます。

そう、あの山の手通りからボーラー並木の先に莊厳な姿を見せて、甲府一高の校舎です。

私達は、丁度百周年を迎えた次の年に入学した生徒でした。伝統あるこの学び舎で三年間を過ごす事ができました。何事にも変えられません。

三年間、大勢の先生方、職員の皆様に支えられました。中でも三年時の担任であった松土先生には、私達の人生のスタートを切る上で大変お世話になりました。

松土先生に開わるエピソード、「リケジヨ」1人がリレーでお伝えします。

匿名希望

3年3組恩師 興石 和雄先生

三年生四月の始業式。担任の先生が興

石和雄先生と発表があつた時、三組の皆がざわついたのを覚えています。私たちは当然二年生の時の担任の深沢先生だと思つていましたし、文系と理系の担任の先生が入れ替わるとは思いもよらなかつたからで、それが英語の強化の為だつたとは、当

毎日声かけられてました(智恵巳)「勝負してみるか?」の一言で人生が変わりました。

(美紀)外資系の会社から転職されてしまった事がおどろきでした(典子)女クラの前でわざと男子を注意していた事(のり子)

彼女に振られた翌日、黒板に泣いているねずみの絵を描いていた事(淑子)リヤン

シャーパー(両手でビンタ)これで決まりです(由美)御坂の自宅でバーべキューに呼んでもらった(由美子)BMWでの幅寄せ(由

実)とにかく若かつた、これがすべてです(千鶴)

その他、最も多く寄せられた思い出は、うまい棒買収事件です。うまい棒がロングセラー商品でよかつた。

このように、学問よりも大切な(?)事が覚えていない私達をお許し下さい。

その後の松土先生の御活躍は、ここに特筆するまでもなく、テレビ、新聞などメディアを通して拝見しています。

大変御無沙汰してて申し訳ありません、松土先生の御指導があつたからこそ、今日私達がここに存在し得ると思います。

思い出を胸に成長し、それぞれ人生を歩み続ける私達の姿を、先生に御覧いただける事、大変嬉しく思います。これから先も、私達の人生の師であり続けて下さい。

また、先生は歌だけでなく、運動も得意でした。女子バスケットボール部を熱心に指導されており、球技大会での生徒との試合では機敏な動きで活躍されました。

改めて考えますと何でも得意なオールマイティな先生でいらっしゃいました。そんな素晴らしい先生とともに高校三年生という多感な時期を過ごすことができたことに、感謝するばかりです。

興石先生は私達の卒業と同時に新設された昭和高校へ異動なり学年主任を務められ、その後韭崎高校の校長先生や、山梨県教育委員会教育長などを歴任されました。また、一昨年には長年にわたる教育への尽力に対して「瑞宝小綬章」を綬章されました。この場をお借りして改めてお祝い

時は全く知りませんでした。

最初は落ち着かなかつたクラスも、いつもパワフルで明るい興石先生のおかげでまとまっていきました。英語の授業は張りのある大きな声で教えて下さり、とてもわかりやすかつたです。また、毎日のように「出る單」の小テストがあり、頑張つて英単語を覚えたのも懐かしく思い出されます。

大変な受験期を乗り切るため、先生は時には厳しく、時には冗談を言って私たちのことを励ましてくれました。また、悩みにも親身になつて相談にのつてくださるなど、本当に感謝しております。

先生は、歌がとてもお上手だったことも思い出されます。英語の授業で皆の緊張がなかなか解けなかつた時、その当時流行っていたケンタッキー・フライドチキンのCMで流れていた「ケンタッキーの我が家」を英語で歌つてくださいました。また、共通一次試験の直前には教室で、力強く武田節を歌つてくださいり、「我出陣に憂いなし」の一節にとても励まされたのを覚えています。

また、先生は歌だけでなく、運動も得意でした。女子バスケットボール部を熱心に指導されており、球技大会での生徒との試合では機敏な動きで活躍されました。

改めて考えますと何でも得意なオール

申し上げます。

総會の時に有志で約三十年ぶりに先生を訪ねましたが、教えていただいた頃とお変わりない張りのあるお声で迎えてくださいました。お元気い色々ご活躍のご様子、とても嬉しく思いました。

末筆ではございますが、輿石先生をはじめご指導いただきました諸先生方の今後のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

3年4組恩師 中川文明先生

寺田
順

わが子へ繼承・古典勉強法
身体の程は中肉中背。色白のお肌に里
縁の眼鏡。ちょっととベビースモーカーなど、
ろ以外は穏やかなたたずまい。
そんな表現が、当時の中川先生にはぴつた
りです。

2年次の土屋先生は、女子クラスの中に
もぐいぐい入つてらした、ちょっとウザがら
れる？（先生、ごめんなさー）お父さんタイプ
だつただけに、椅子に腰掛けて教室の奥か
ら、生意気盛りの私たちを静かに見守る中
川先生が新鮮だつたのを思い出します。
さすが国語の先生、書かれる字がとてま

綺麗で、中でも黒板の文字がため息が出るほど美しかったのを覚えています。授業中ぽーと見ていたら「おい、大丈夫か?」と

古典で、並々でない、素晴らしいなどと訳される「いみじう」(発音は、いみじゅー)というニックネームも、国語を愛する実直なお人柄をうまく表して、言い得て妙な親近感のあるものでした。

そんな穏やかな先生も受験となれば
変。当時大した勉強もしなかつたくせに

3年5組恩師 深沢好司先生

古守やす子

男子はそのつややかなオールバックの髪から「ボマード」と、女子はその口癖から「まさか」と親愛を込めて呼ばせていただい

た我がクラスの担任、深沢好司先生。大き
な黒縁メガネに「ほ～ずれ～」と強烈な田
州弁で毒舌を放ちながら、その奥に深い愛
情を秘め私達をご指導下さった先生に、今
あらためて感謝申し上げます。

「ほ～な～ん～て」と答ちますですよ

「えらいおとん遠いようだけんど大丈夫は
」三年生から私達文系クラスの担任と
なつた先生は、日々手厳しいお言葉を下さ
いましたが、私達を奮起させ力を引き出
して下さつたことは言うまでもありません。

秋になり推薦合格者が出てくると、生徒は彼らに清掃を命じました。放課後には

3年6組恩師 杉山裕子先生

清水
盼

とのなかつた先生ですが、先生は五組の一人のことを最後まで心から案じて下さいました。県内の公立大の合格発表日、生徒の報告を待つに堪えず大学まで見に行つたときには感謝で頭が下がりました。先生のご指導のお蔭で、現在私達はそれぞれの場所で、一高出身の誇りを持ち、社会の役に立つべくしっかりと生きています。本当にありがとうございました。先生のご多幸とご健勝を五組の生徒一同心よりお祈り申し上げます。

トが「じゃあね！」「バイバイ！」と笑顔で挨拶を交わし合う中で五組の友情は深まつていきました。頑張つてという思いと頑張るねという思い：最後は絶対全員が合格だという思い：先生の周到なご配慮の中で育まれた青春の一コマです。（しかし最初の難関私大合格者の二人が、水泳部顧問だつた先生の指示でプールの草取りをしていたことまではみんな知らないと思います！）

りわけ文系の普通クラスだった私たちには、残念ながら杉山先生が求める学習能力には遠く及ばず、自らのクラスを「散年ROCK魅」と称して自由気ままに過ぎた個性派集団でした。

とはいへ、やはり進学校の高ですから、あまり勉強熱心でない私たち教え子の心をさぞかし御心配されたこと、と思います。ですが先生「安心してください」と、ラスマイト皆それぞれ、自分の生きる道を見つけ、懸命に人生を歩んでいますよ。する者は大手企業の中核として、ある者は官公庁や教職に、またある者は福祉の方面に、あるいは自ら起業した者など、社会として、子を持つ親として様々な立場で、会に貢献しています。

そして今回、甲府中学・甲府一高同窓会総会当番幹事として、3年6組からは古行委員長の千野英治君をはじめとする多くのクラスメイトが中心メンバーとなつて尽力し、今日を迎えるに至りました。卒業から32年経つてなお、こうして力を合わ

恩師御礼

ることができたのは、あの時の一高祭総合優勝の団結力が今も衰えることなく生きているからではないかと思います。杉山先生、お元気でしたら是非成長した私たちの姿を御覧になつてください。勉強は今つでしたが、どっこい社会で頑張つてますよ。私たち「散年 R.O.C.K 魅」は、これからも人生を舞台に最高のパフォーマンスをお魅せします。どうぞご期待ください。

3年7組恩師 雨宮 泰明 先生

天野 新一郎

おいおい、援団よか、おつかねえオツさんいるじやんよ。

それが新入生への応援練習での人の第一印象。働き盛りで、お子さんもまだ小さく、心残りは尽きることなく旅立つたのだと思ひます。泰明(タイメイ)の愛称?で呼ばれた恩師は、熱き指導者そのものでした。

受験時、最も行きはなかつた一高。伯父貴が教師で在校、勉強などハナからやる氣はなく、部活も目当てなく、強行遠足はあるし、応援練習も厳しいとの噂。てんこ盛りのマイナステンションで入学したら、部員が居なくて困る!との強引な勧誘で山岳部へ席だけ置くことに。そこで、更に奈落の底へと墮ちる。タイメイが顧問ときた。登校意欲ゼロどころかマイナスから始まつてんの、そもそも。よくサボりました、授業も部活も(部活は、山以外、スキー、落研の掛け持ち。どれも昭和の熱血学園ドラマ系から縁遠い、活動そのものが無い様なモノ)それでも、当時の山岳部(今ドキな山ガールがいる訳もない、むつさい地味な部活。そもそも、競技として総体やインターハイがあることなど殆ど認知されなかつた)は県の総体で準優勝の常連。他の体育

系と違い、優勝→インターハイ出場。準優勝→関東大会出場でな変則規定の為、関東大会へ行く時は小旅行気分。タイメイ先生のランクルに装備と共に放り込まれ、埼玉の両神山へ向けて出発。甲府から埼玉方面へ向かうのに、何故か須玉を経て長野県へ、千曲川源流部を目指し金峰山の手を東へ進む、この辺りから未舗装のつづら折り林道が続き三国峠で一休みするまでに完全にバテていた。峠にお茶屋があり、囲炉裏端で味噌田楽を焼いていた。

芳ばしい香りに唆られてタイメイ先生が駆走してくれた。ジャガイモ生地に味噌の甘辛が最高に旨かつたのを憶えている。

教育の現場では厳格なタイメイも笑顔でかぶり付いていた。

そんな熱血漢で人間味溢れるタイメイ先生の身体は病魔に冒され、次第に痩せて細り、最終学年の担任時は休みがちで、嘗てのおつかねえオツさんの面影は薄らいだいた。お見舞いにお邪魔した時に小さなお子さんと奥様に遭遇。タイメイ先生の2人を見つめる眼差しは優しく深いもので、優げでもあった。卒業し、再会したのは遺影でした。早い死であつても、その熱く優しい生き様は私に大いに訓えをくれた気がする。

50を過ぎた今も山へ狩り、川へ釣り、そして人や地域の役に立つならばと葡萄畠へ足を運ぶのも、雄大で厳しい登山を通じ、懸命に生きることを教えてくれた恩師がいたから。

3年8組恩師 安藤 十二男 先生

山本 寿仁

高校時代3年間の思い出、その30年以上前の記憶を掘り起こしてみると…楽し

かつたこと、辛かつたこと、悲しかつたこといろいろとあります。どんな思い出かと考えてみたら、私の高校3年間は野球漬けだったな、とつくづく思います。朝は早朝からの朝練、昼休みはグランド整備があるので昼飯は10分で食べ、放課後は練習、練習終了後は上級生からの御小言、帰宅するのは9時過ぎ。こんな生活が1年300日ぐらいあつたような気がします。唯一テスト期間だけが解放された時でした(全く勉強はしませんでしたが…):甲子園出場を目指にひたすら頑張ったような気がします。結局目標には届かなかつたけど。

こんな高校生活を送つた中で時々ちょっと躊躇したこともありました。そんな時担任の安藤先生に助けていただいたこと、支えていただいたことは今でも忘れません。具体的なことはここでは言いませんが、先生には感謝、ただ感謝です。ありがとうございました。当時はあまり考えもしていませんでした。当時はあまり考えもしていませんでしたが、先生方は、やっぱり生徒のことをしつかり考えていました。なあ、と大人になつてからよくわかりました。

そんなこんなで甲府一高での3年間を改めて振返つてみると、辛かつたこと、悔しかつたこと色々あつたけど、今となつてはすべて楽しかつたかな。

以上、とりとめない文章で申し訳ありませんでした。

3年9組恩師 田中 資時 先生

保坂(京島) 律子

卒業から32回目の冬将軍も去り、鶯の鳴き声が心地よく聴こえる頃になりました。古の母校を背に、先生に送り出されてそれの道を歩み始めたのも、ついこの間の時のように思います。その私達も50歳を迎え

かつたこと、辛かつたこと、悲しかつたこといろいろとあります。どんな思い出かと考えてみたら、私の高校3年間は野球漬けの希望に満ち溢れ大海へ乗り出しました。さぞかし先生の心配の胸中は図り知れません。先生には、父のような寛大な心で、時に師として厳しく、そしていつも優しい眼差しで私達にご教示して下さいました。

秋の頃、まわりは大学受験モードになっているのにもかかわらず、我がクラスメートは受験そちのけでスター誕生オーデションを受けに行つたり:通称「芸能クラス」一高創立以来の前代未聞のクラスだつたのではないでしようか?休み時間になると、机を並べ舞台を作つて歌と振付の練習!それもこれも「青い」・「蒼い」思い出です。当時、先生には「歌手になるのも良し(笑)、でも勉強もちょっとだけやれ!」と言われたような記憶があります。久しく会つていらない仲間ともこの話題になると、当時を思い出し盛り上がりります。先生には、「やるべきことはやりなさい、やりたいこともやりなさい」と、その精神を頂きました。先生には大変ご無沙汰しております。「便りがないのは良い便り」ということにお納め下さい。私達3年9組クラスメートは元気にしております。また田中先生始め、その時々にご縁を頂いた先生方のお顔が浮かび、高校時代の状況や自分の有様が思い出されなんとも言えず懐かしく又、胸が疼くような感じが致します。一高卒業後、個で飛び出した私達が今この同窓会再会において太い輪になろうとしています。5月同窓会当日には、先生にお会いできることを3年9組有志一同、心より楽しみしております。

広告目次

第一三六周年甲府中学・甲府一高同窓会 学年協賛者氏名

千佐坂齊小長大遠井赤赤
野野本藤池田澤藤上澤池
裕由典宏敏敬昭隆忠裕
明淳美子史昭造久尚彦司

【2組】

新中中中清熊窪河加上赤
津村田川水谷田西美野澤
浩正英秀 映真貴
二武久二樹晃勝樹弘章泰

【1組】

中中長長徳田鈴鈴阪三帶小板赤
久西澤坂坂保永中木木木木本枝名野垣池
幸俊康克 隆実雅 容裕晶泰 広
敬哉史彦孝志和巳茂貴一和子寛修康

【3組】

和渡若天望樋長内土
田辺尾川月川井藤橋
克宏千美高淑 由信
則一鶴紀行子隆子也

石天原野 6組 本田赤石齊齊森今佐岩
田中澤川藤藤川福木間
由祥紀子子 雪美優雅茂茂順
司江枝子行樹樹勝子清

【5組】

成芹諷窪
瀬沢訪田
ひろみ弓
薰

【4組】

三丸星
井茂合
伸光美
子二奈子

長内末佐齋小小工風小荻
沼藤木野藤松藤間田野
秀晃江か永は公功千正
昭生子子健憲み仁子春吾

【7組】

山三野野二新千田杉清佐小加磯
井本田沢口宮田野邊山水野松藤部
勝ひ和眞英優潤宏敏ひふ
実み夫恵務修治子子聰枝行美齊

依村松保並齊齊近小大
田松土坂河藤藤藤野森
喜洋久律滋寿多あ裕文
代美子美子子恵子み子子

【9組】

山長牛
谷本川山
寿勝弘
仁仁嗣

【8組】

依望望古西
田月月屋野
美智敬貴恵
佳子子子美

第一三六周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会組織

平成13年卒業生

東京部会

事務局
副部会長

クラス幹事

記念誌部会

会場部会

会員券部会

広告部会

事務局

実行委員長
実行副委員長

9 6 4 5 5 9 8 7 6 5 4 3 2 1
組組組組組組組組組組組組組組

5 2 1 1 6 2 7 9 1 1 2 6
組組組組組組組組組組組組組組

雨三小三芹今森齊山荻清齊寺長遠中
宮澤野井沢福川藤本野水藤田坂藤村
智眞裕ひろみひろみ茂寿寿正茂克昭
美人子勝樹恵仁吾聰樹順彦久武

齊遠藤中中清佐荻保中中赤千野
藤村田水野坂田田澤野
茂昭樹正武久聰淳吾子久彦治



編集後記

まずははじめに、第136周年 甲府中学・甲府一高同窓会 記念誌発行に係り、ご協力いただいた同窓会会长、OB諸先輩、恩師、現甲府一高校関係者、そして同窓会実行委員のみなさまに感謝いたします。本記念誌は、ほぼこの方々のみなさまに作成していただき、われわれ記念誌部会員はその交通整理をしただけ、といった感じです。本当にありがとうございました。

同窓会実行委員として、生涯、初めてで、最後の、そして貴重な経験ができたこと、特にわれわれ同級生の輪が大きく広がったことは大きな財産になったことだと思います。これを機に、「日に新た」を念頭にいろいろなことに挑戦していくたいと思います。

最高に第137周年同窓会に携わる実行委員会のみなさまは、今後大いに楽しんでください。(記念誌部会長)

第136周年 甲府中学・甲府一高同窓会

目に新た

発行日:平成28年5月21日 発行:第136周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会 編集:記念誌部会 制作・印刷:株式会社少國社



祝 創立 136 周年



贊天地之化育

TASUKUBESHI TENCHINO KAIKU

一、
甲斐の国 み中に建ちて
古へゆ 雄心伝へ
新しき 世の鑑とし
勉めてむ この学舎に

二、
日に新た また日に新た
弥高き のぞみをもちて
真なる 理究め
励みなむ 若人我等

三、
聳えたつ 芙蓉のたかね
清き哉 甲斐の山川
もろともに 玉と磨きて
贊くべし 天地の化育

昨年はありがとうございました。

昭和 58 年卒業生一同

同窓会案内

第 57 回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

テーマ 「永遠の一高～未来への櫻～」

サブテーマ 「Ask what we can do it in TOKYO for ICHIKO」

平成 28 年 7 月 9 日 (土) 15:00~18:00 (第一部総会 第二部懇親会)

当番幹事：昭和 53 年卒 サブ幹事：平成 6 年卒

会場：ホテルグランドパレス (九段下)

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋 1 丁目 1-1

03-3264-1111 (代)

・地下鉄『九段下駅』

東西線 7 番口 (富士見口) より徒歩 1 分

・JR・地下鉄『飯田橋駅』より徒歩 7 分

総武線・有楽町線・南北線・都営大江戸線

第 137 周年 甲府中学・甲府一高同窓会

平成 29 年 5 月 20 日 (土)

会場：甲府富士屋ホテル

当番幹事：昭和 60 年卒 副当番幹事：平成 14 年卒

大勢の皆様のご来場をお待ちしております。

難病の子どもたちのための キャンプ場建設を支援しよう!

みんなのふるさと
夢プロジェクト

キャンプ場(レスパイト施設)「あおぞら共和国」の利用が始まっています!!

甲府中学・甲府一高同窓生の皆様に、ここ数年ご寄付のお願いをしてきました「みんなのふるさと夢プロジェクト」(難病の子どもたちのためのキャンプ場(レスパイト施設)の建設)も、おかげさまで順調に進行し、数年以内に建物完成の目途がたちました。これまで同窓生の皆様より多くのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。昨夏より施設の利用も始まり、これまで一般の宿泊施設に泊まることができなかった難病の子どもたち、そしてその姉妹・兄弟のたくさんの笑顔を見ることができました。しかし、まだ全体の完成や今後の運営には多額の費用が必要となります。引き続きご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

あおぞら共和国 完成予想図



1号棟、2号棟、4号棟、浴室棟と建築中の3号棟



甲斐駒ヶ岳の山麓(サントリー白州工場より徒歩3分)の3000坪の土地に、山小屋を6棟・センター棟・浴室棟2棟を建築予定。そのうち2016年中に5棟完成。

外の世界を知らない難病の子どもたちを、自然の中に連れ出すお手伝いをしています。

甲府一高あおぞら会 会員募集!!

“甲府一高あおぞら会”は、このプロジェクトの理念に共感する甲府一高同窓生を中心とした集まりです。認定NPO法人難病の子ども支援全国ネットワークが主催している「みんなのふるさと夢プロジェクト(あおぞら共和国の建設・運営)」を支援しています。会長は45年卒の露木和雄(副会長:軽石泰孝、事務局:山本秀彦)、年会費は3,000円です。チャリティウォーキング、草刈りなど各種イベントのお手伝いをしています。毎年4月下旬には『新緑ウォーク』を開催しています。ただいま会員を募集しています。



各イベントの様子。昨年の紅葉ウォークでは地元の方々を交えたお祭りも同時開催され、現役甲府一高生(アカペラ部)も参加しました。

◆ご入会のお申し込みは

以下の方法でご氏名、卒業年度、ご住所、携帯番号、“甲府一高あおぞら会ご入会”と明記していただきますようお願いいたします。



ファックスで → FAX 042(786)4132 メールで → 事務局メールアドレス aozora@ymkp.net

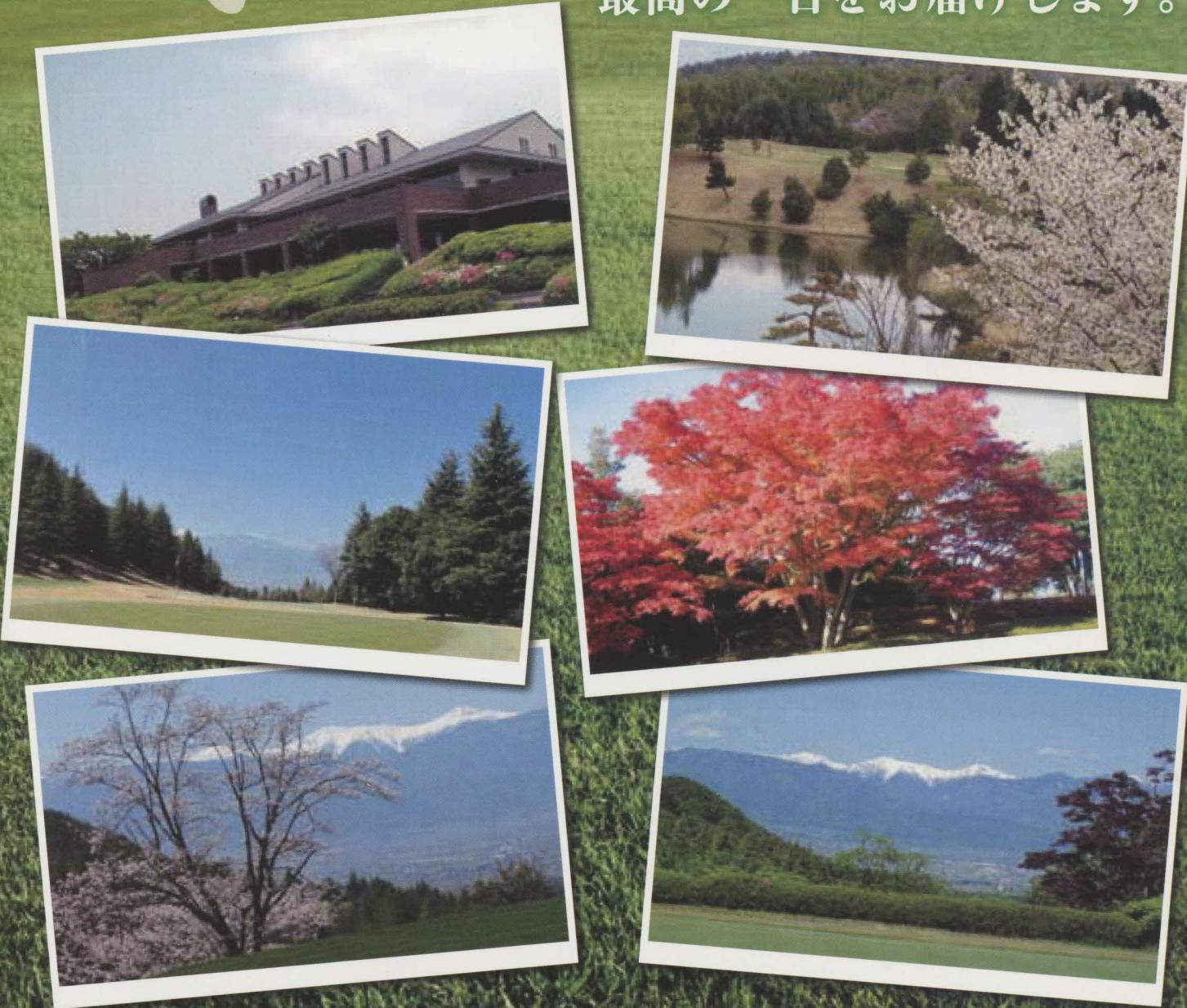
郵便で → 〒252-0233 神奈川県相模原市中央区鹿沼台1-7-7 おぐちこどもクリニック内 甲府一高あおぞら会行

←甲府一高あおぞら会 ホームページ <http://www.ymkp.net/aozora/> フェイスブック <http://urx.nu/1l6t>

おぐちこどもクリニック院長 小口 弘毅 (昭和45年卒)

祝 同窓会

眼下に広がる李桃の里
四季折々の眺望
最高の一日をお届けします。



境川カントリー倶楽部

〒406-0851 山梨県笛吹市境川町小黒坂2266

ご予約・お問い合わせ

☎055-266-5012

<http://www.sakaigawacc.com>